

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	DF-JOBV23
適用 バージョン・レベル	V23L60
製品コード	A93166F3-2360-1

ソフトウェア説明書

OSIV/MSP SIMPLIA/DF-JOBFLOW V23



## ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

SIMPLIA/DF-JOBFLOW V23

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストレーションを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストレーションを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次の通りです。

- ◆参照 → 本書の中の参照箇所を示しています。
- ◆【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。  
例：◆【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2017年11月

富士通株式会社

Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 1991-2017

## 目 次

1. 機能概要 .....	1
2. 構成プログラム .....	2
3. 適用マニュアル .....	2
4. 新機能 .....	3
5. 制限事項 .....	7
6. 移行上の注意 .....	8
7. ソフトウェア組合せ条件 .....	9
8. 入出力装置 .....	10
9. 提供媒体形式と内容 .....	10
10. DASD所要量 .....	11
11. インストレーションの手引 .....	12
12. 使用上の注意事項 .....	28
13. 稼働確認 .....	29
14. 日本語名標辞書データ変換プログラム .....	36
15. 注意事項 .....	40
16. 適用マニュアルの正誤表 .....	41
17. プログラム修正事項 .....	69

## 1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

OSIV/MSP SIMPLIA/DF-JOBFLOW (SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/Document Facility of JOB FLOW) は、ジョブ制御文 (以後、JCLと呼ぶ) を解析して、そのドキュメントを出力するツールである。

DF-JOBFLOWは以下の機能を持つ。

### 1. 1 ジョブフロー出力機能

1本のプログラムで使用されているデータセットの構成及び数本のプログラムにまたがって使用されるファイルのつながりを図形式にして出力し、それに並行してデータセット情報を出力する。実際に運用しているJCLよりジョブフローを自動作成するので、常に正確なジョブフローを取得できる。

- － ジョブフロー図とデータセット情報の出力
- － ジョブフロー図のみの出力
- － ジョブフロー図と解析対象JCLの出力

### 1. 2 データセット一覧出力機能

解析対象であるJCL中で使用されているデータセットに関する情報を出力する。

各情報は解析対象JCLより取得するが、情報が不足している場合は、PARM文の指定によりVTOCより取得することも可能である。これによりプログラムなどを変更した場合に影響するデータセットの検索が容易に行える。

### 1. 3 ドキュメント出力範囲の指定

メンバの最新更新日付やメンバ名又はその範囲の指定により、目的に応じた必要なドキュメントだけを出力できる。

### 1. 4 日本語出力機能

日本語名標辞書を使用することにより、プログラム名、ジョブ名及びデータセット名を対応する日本語名で出力できる。

### 1. 5 Windows上でのジョブフロー図等の表示

Windows上でジョブフロー図等を表示するためのJCL移出ファイルを作成する。

ホスト上でJCL移出ファイルを作成し、Windowsに転送し、Viewer 2機能を使用してジョブフロー図等を表示することができる。

Viewer 2機能は、XLSX形式でのジョブフロー図と一覧を出力する。

従来からのジョブフロー図出力機能「Viewer」は、Word形式、HTML形式でのジョブフロー図およびXLS形式の一覧を表示したい場合に使用する。Viewerは将来終息の機能である。

### 1. 6 マクロ名チェック機能

解析対象のJCL中のプロシジャ名がプロシジャライブラリに存在するかどうかのチェックが行える。

## 2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	SIMPLIA/ DF-JOBFLOW	J S M J 0 0 1 0	V 2 3 L 6 0	バッチ用
		J S M J 8 0 0 0	V 2 3 L 6 0	会話機能用
		J S M J D I C T	V 2 3 L 6 0	日本語名標辞書変換用

## 3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/DF-JOBFLOW解説書	J1M0-9061-01	

## 4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョンレベルに対して以下のような機能追加及び改良が行われている。

### 4. 1 V 2 1 L 1 0 で行われた機能追加・改良点

#### 4. 1. 1 ジョブフロー出力の追加・改良

- － K S T, K S T IIに加え, T-G S Pによる図形出力を可能とした.
- － 情報欄に解析対象 J C Lの展開出力を可能とした.
- － ジョブフローに必要なデータセットの作画抑制を可能とした.
- － S Y S I Nデータ ( / D D名 \*以降に続くデータ)等を解析対象とし, また情報欄への出力を可能とした.

#### 4. 1. 2 その他の帳票の改良

- － 実行時オプションにより, 目次出力を可能とした.
- － C L Pでの帳票出力を可能とした.
- － 指定パラメタ, 確定パラメタ, 指定 S Y S I N制御文, 実行結果メッセージ等を 1 ページに一括して出力することにより, 用紙の節約を行った.
- － ヘッダ部をわかりやすい表現に変更した.

#### 4. 1. 3 入力データセットの追加

- － A P / D F で作成されたデータセットの入力を可能とした.

#### 4. 1. 4 画面による会話機能の追加

- － J C Lがわからない人や D F - J O B F L O Wの機能を十分に活用できていない人にも, 同ソフトウェアを効率的に使用できる環境を提供した.

### 4. 2 V 2 1 L 2 0 で行われた機能追加・改良点

#### 4. 2. 1 ジョブフロー出力の追加・改良

- － 文字は K S T 又は K S T II, 図形は T-G S Pによる出力を可能とし, 出力時間の短縮を図った.  
参考) 1メンバ当たり 50 ジョブステップの J C Lを入力とした場合, T-G S Pのみの出力時に比べ出力時間はおよそ 5 分の 1 に短縮される.

#### 4. 2. 2 会話形式からの帳票出力の改良

- － 会話形式からの帳票出力時に, 用紙制御イメージ識別名の指定を可能とした.

### 4. 3 V 2 2 L 1 0 で行われた機能追加・改良点

#### 4. 3. 1 Windows 上でのジョブフロー図の表示

- － Windows 上でのジョブフロー図の表示を可能とした. 表示を行うには, ホスト上で J C L 移出力ファイルを作成する必要がある. J C L 移出力ファイルを Windows 上に転送し, V i e w e r を使用することによりジョブフロー図を表示することを可能とした.

#### 4. 3. 2 画面情報ユーザファイルのデータセット名の変更

- － 画面情報ユーザファイルのデータセット名を ' プロジェクト名. J O B F L O W. @ U S E R ' から ' プロジェクト名. J O B F L O W. U S E R. S E F I L E ' に変更した.

#### 4. 3. 3 入力元データセット名の表示の改良

- － ジョブフロー図, データセット一覧において入力元の J C L ライブラリが連結されている場合, 出力メンバに対応するデータセット名を表示するようにした.

#### 4.3.4 2000年対応

- － 解析対象メンバの最終更新日付指定において、2000年以降の日付処理を可能とした。

#### 4.4 V23L10で行われた機能追加・改良点

##### 4.4.1 ADL解析機能オプションの追加

- － ADLソースライブラリからADL情報を解析し、ADLに定義されているデータセット情報をジョブフロー図およびデータセット一覧に出力できるようにした。

##### 4.4.2 マクロ名チェック機能の追加

- － 解析対象のJCL中のプロシジャ名がマクロ名チェック機能実行制御文で指定されたプロシジャライブラリに存在するかどうかのチェックを可能とした。

##### 4.4.3 入出力判定指示機能の追加

- － DD名を指定することにより、ジョブフロー図上のデータセット出力位置（入力／出力／入出力）を指定することを可能とした。

##### 4.4.4 データセット情報出力抑制機能の追加

- － @ROPT制御文で指定されたDD名情報により、ジョブフロー図のデータセット情報欄の出力を抑制するオプションを追加した。

##### 4.4.5 西暦4桁表示対応

- － 目次、ジョブフロー図、データセット一覧の各帳票の日付表示部分について、西暦4桁表示とした。

##### 4.4.6 Viewerでの印刷機能の追加

- － Viewerからジョブフロー図の印刷を可能とした。

##### 4.4.7 Viewerでの表示機能の改善

- － Viewerでジョブフロー図とデータセット情報を左右に表示し、見やすくした。また、縮小表示機能、クリップボード経由のコピー機能を追加した。

##### 4.4.8 ViewerのWindows98対応

- － ViewerのWindows98での動作を保証した。

##### 4.4.9 移入機能のコマンドライン化

- － Viewerの移入機能をコマンドラインで実行可能にした。

##### 4.4.10 画面情報ユーザファイルのデータセット名の変更

- － 画面情報ユーザファイルのデータセット名を'プロジェクト名. JOBFLOW. USER. SELF FILE' から'プロジェクト名. JOBFLOW. USER. FILE' に変更した。

#### 4.5 V23L20で行われた機能追加・改良点

##### 4.5.1 ジョブフロー出力の追加・改良

- － プロシジャのメンバの直接入力を可能とした。

##### 4.5.2 Viewerでの機能追加

- － JOBFLOWの各機能は、Windowsエクスプローラなどの開発マネージャのメニューから、機能の呼び出し、資産選択を行うことを可能とした。
- － ジョブフローに加え、データセット一覧、ジョブ一覧、フォームオーバーレイ一覧の出力を可能とした。
- － ドキュメントの出力形式をWord97または98の文書や、Excel97または98のシートといった編集可能な形式での出力を可能とした。これにより、出力したドキュメントを自由に変更することができる。



- － 設計書や一覧表といったドキュメントのヘッダ部やフッタ部を、自由にカスタマイズすることを可能とした。これにより、ドキュメントフォーマットをお客様の標準化規約に合わせることも可能とした。
  - － インターネット環境を意識して、設計書をHTML形式で出力し、出力した結果をサーバ上に保管することにより、WEBブラウザを利用して保守情報の共有を可能とした。
- 4.6 V23L30で行われた機能追加・改良点
- 4.6.1 制限事項の緩和
- － 仮パラメタへの実値に” , ” (カンマ), 空白 (スペース) が使用されているJCL, プロシジャの解析を行えるようにした。
- 4.6.2 Viewerでのジョブフロー図表示の改善
- － Word形式で出力される標準サイズ(A4縦)のジョブフロー図を拡大した。
  - － Word形式でジョブフロー図を出力する場合のドキュメントのカスタマイズ手順を追加した。
- 4.6.3 ViewerのWindows2000対応
- － ViewerのWindows2000での動作を可能とした。
- 4.7 V23L40で行われた機能追加・改良点
- 4.7.1 Viewerでの機能追加・改良点
- － WindowsXP, WindowsServer2003, WindowsVistaまたはWindowsServer2008での動作を可能とした。
  - － Word2007, Excel2007での動作を可能とした。
  - － システム選択(作成)及び(変更)の管理者名, 著作権表示の入力文字数を60バイト(全角30文字)から, 255バイト(全角127文字)に拡張した。
  - － 新規作成されたシステムの「制御文の出力行数」の初期値を0行から5行に変更した。
  - － 移入処理で, コード変換方法の指定を可能とした。
  - － 移入処理で, 異常終了した場合でも既存のJCLアナライズファイルを上書きしないようにした。
  - － 設計書ドキュメント(ジョブフロー)に, 制御文更新日と日本語ジョブ名を出力可能とした。
  - － 設計書ドキュメント(ジョブフロー)と同時に出力されていたEMFファイルを自動削除するようにした。
  - － 一覧表ドキュメント(データセット一覧)に, 日本語データセット名の出力を可能とした。
  - － HTML形式の表紙に, 作成日と管理者名の出力を可能とした。
  - － DFJOB CMDコマンドにおいて, JCL移入ファイルから処理したJCL本数および処理終了時刻またはエラー発生時刻を, エラーファイルまたはコンソールへの出力を可能とした。
- 4.8 V23L50で行われた機能追加・改良点
- 4.8.1 プログラム入出力情報反映の追加
- － ジョブフロー図のDD文入出力判定の精度を向上させるため, SIMPLIA/DF-PROGRAMで作成したCOBOLプログラムのファイル入出力情報の反映を可能とした。
- 4.8.2 Viewerでの機能追加・改良点
- ・ 以下のOSでの動作をサポートした。
    - － WindowsVista (64bit)
    - － Windows7 (32bit)

- Windows 7 (64bit)
  - Windows 8 (32bit)
  - Windows 8 (64bit)
  - Windows 8.1 (32bit)
  - Windows 8.1 (64bit)
  - Windows Server 2008 R2 (64bit)
  - Windows Server 2012 (64bit)
  - Windows Server 2012 R2 (64bit)
  - WOW64環境でのエクスペローラ連携機能をサポートした。
  - Word 2010, 2013およびExcel 2010, 2013環境での動作をサポートした。
- 4.9 V23L60で行われた機能追加・改良点
- 4.9.1 Viewer 2機能の追加
- Viewerの移入機能で作成するJCLアナライズファイルを入力とし、新しいフォーマット (Excel形式) によるジョブフローおよび各種一覧のドキュメント出力を可能とした。
- 4.9.2 制限事項の緩和
- ジョブフローの解析対象JCL出力欄にプロシジャ中の注釈文出力を可能とした。
- 4.9.3 制限抵触メッセージの出力
- JCL解析を行う上で制限抵触となった場合、軽度のエラーメッセージを出力するようにした。最大重大度コードは軽度エラー (04) となるが、出力ドキュメント内容は改良前と変わらない。
- 4.9.4 装置記号の出力抑制の改良
- Viewer 2機能に必要なJCL移出ファイル作成時に、ジョブフロー図から装置記号を抑制する指定を可能とした。Viewerで出力するドキュメントはサポートしていない。

## 5. 制限事項

DF-JOBFLOWの制限事項のうち、主要なものを表5.1に示す。制限事項の詳細は、適用マニュアルを参照されたい。

◆参照【1】2.6

表5.1 制限事項

制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
本ソフトウェアを認定ライブラリにインストールする又はインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOBLIB又はSTEP LIB DD文に本ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して実行する。	な し
会話形式使用時，割り当てられるJCLファイルの第一修飾子はユーザIDとなる為，PREFIX≠ユーザIDでは動作しない。	_____	な し
JCL内にUNIT=AFF=DD名の指定がある場合，必ずDASDとして出力される。	_____	な し
ADL解析指定はADLソースライブラリ中の全メンバについて解析を行うため，ADL解析指定を行わない場合に比べ著しく性能劣化する場合がある。	_____	な し

## 6. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには、以下の事項に留意しなければならない。

### 6. 1 V 2 0 L 1 0からの移行

- (1) V 2 0 と共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。  
(旧バージョンと同じロードモジュールライブラリに格納しない)
- (2) オーバレイについてはフォーマットが変更されているため、登録し直す必要がある。

### 6. 2 V 2 1 L 1 0からの移行

- (1) V 2 1 L 1 0 と共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。  
(旧バージョンと同じロードモジュールライブラリに格納しないこと)
- (2) 画面起動用コマンドプロシジャについては変更があるため、作成し直す必要がある。
- (3) 画面情報ユーザファイルについてはファイル名が変更されているため、作成し直すか、改名する必要がある。
- (4) オーバレイについてはフォーマットが変更されているため、登録し直す必要がある。
- (5) 実行JCL, 画面情報マスタファイルについては作成し直す必要はない。

### 6. 3 V 2 1 L 2 0～V 2 2 L 1 0からの移行

- (1) 旧バージョンと共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。  
(旧バージョンと同じロードモジュールライブラリに格納しないこと)
- (2) 画面情報ユーザファイルについてはファイル名が変更されているため、作成し直すか、改名する必要がある。
- (3) オーバレイについてはフォーマットが変更されているため、登録し直す必要がある。
- (4) 実行JCL, 画面起動用コマンドプロシジャ, 画面情報マスタファイルについては作成し直す必要はない。

### 6. 4 V 2 3 L 1 0～V 2 3 L 5 0からの移行

- (1) 旧バージョンと共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。  
(旧バージョンと同じロードモジュールライブラリに格納しないこと)
- (2) オーバレイ, 実行JCL, 画面起動用コマンドプロシジャ, 画面情報マスタファイル, 画面情報ユーザファイルについては作成し直す必要はない。

## 7. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは以下のとおりである。

表7.1 必要関連ソフトウェア (OSIV/MSP)

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備 考
		必須	任意	
A F II	V10L10以降	○		
C O B O L 8 5	V12L10以降	○		
ソートマージ	V10L30以降	○		
A D J U S T	V11L10以降	○		
J E F 基本辞書	V01L92以降	○		
G E M	V10L30以降		○	J C L ライブラリが G E M の場合
P F D	V10L30以降		○	区分編成の J C L ライブラリから日付指定で処理を行う場合で TSS におけるプログラム開発支援が P F D の場合
A P / D F	V20L10以降		○	区分編成の J C L ライブラリから日付指定で処理を行う場合で TSS におけるプログラム開発支援が A P / D F の場合又は、会話形式を使用する場合
A P / E F	V20L10以降		○	会話形式を使用する場合
P S A M	V20L10以降		○	会話形式を使用する場合
S I M P L I A / D F - P R O G R A M	V21L20以降		○	プログラム入出力情報の反映を使用する場合

表7.2 必要関連ソフトウェア (ジョブフロー出力用追加) (OSIV/MSP)

必要ソフトウェア名	適用V/L	必要条件 (指定オプション)				備 考
		J O B F L O W			A N L F L O W	
		K S T	G S P	G K S		
K I N G (グラフ・ 図形出力) / J E F	V10L10以降	○				
G S L	V10L30以降		○	○		
V M H	V10L10以降	○		○		
F O R T R A N 7 7 ライブラリ	V10L31以降	○		○		F O R T R A N 7 7, F O R T R A N 7 7 E X でも代替可能であるが、F O R T R A N 7 7 E X を使用する場合には、F O R T R A N 7 7 とのロードモジュール互換機能のインストールが必要。

### [補足事項]

指定オプションについて

- K S T : 文字を K S T 又は K S T II, 図形は K I N G により出力する場合.
- G S P : 図形, 文字共に T-G S P により出力する場合.
- G K S : 文字を K S T 又は K S T II, 図形は T-G S P により出力する場合.
- A N L F L O W : W i n d o w s 上でジョブフロー図等を表示する場合.

Windows上でジョブフロー図等を表示する場合の必要関連ソフトウェアについては、Viewer 2 機能のReadme.txt「3. ソフトウェア組み合わせ条件」を参照されたい。

## 8. 入出力装置

本ソフトウェアの各ドキュメントの出力が可能なプリンタ装置について説明する。

本ソフトウェアの帳票は、日本語ラインプリンタ、およびカット紙ラインプリンタで出力することができる。ただし、フォームオーバーレイが出力でき、1行当たりのデータ長（バイト）が305バイト以上の帳票が出力できるプリンタであること。

ジョブフロー図出力時には、使用する図形関連ソフトウェア（KING、VMH、GSL）により出力できるプリンタ、および必要となるオプションが異なるので、各々のソフトウェア説明書等で確認されたい。

## 9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表9.1と表9.2に示すとおりである。

また、ジョブフロー図等をWindows上で表示することのできるViewer 2機能をCD-ROMで提供する。Viewer 2機能に必要なViewer（V23L50）もCD-ROMで提供する。

Viewer 2機能の提供媒体内容については、CD-ROM内のReadme.txt「1.3 製品構成」を参照されたい。

表9.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
SL	DFJOB	8	1

表9.2 提供媒体内容

格納番号	データセット名	内 容
1	JOBFLOW.JCL	提供JCLファイル（インストール用ジョブ制御文、実行用ジョブ制御文、フォームオーバーレイソース、稼働確認用テストJCL）のJSECOPYのアンロード版
2	JOBFLOW.LOAD	ロードモジュールのJSECOPYのアンロード版
3	JOBFLOW.IMAGE	イメージライブラリのJSECOPYのアンロード版
4	JOBFLOW.FORMAT	フォーマットライブラリのJSECOPYのアンロード版
5	JOBFLOW.NDICT	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERのアンロード版
6	JOBFLOW.SEFILE	画面情報マスタファイルのJSDGENERのアンロード版
7	JOBFLOW.UTYLOAD	日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールのJSECOPY アンロード版 ◆参照→14
8	JOBFLOW.UTYJCL	日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のJSDGENERのアンロード版 ◆参照→14

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りを表10.1に示す。

表10.1 DASD所要量

単位は各々次のとおり、  
レコード長、ブロック長：バイト  
ディレクトリ：ブロック  
DASD所要量：トラック

項 番	ファイル名		ファイル形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	ディレ クトリ	算 出 式		備 考
	標準名	変更 可否			DASD所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
1	JOBFLOW. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	2	5	2	
2	JOBFLOW. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	3 3	7 7	5 1	
3	JOBFLOW. IMAGE	可	区分編成 U 0 6144	1	3	2	
4	JOBFLOW. FORMAT	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	
5	JOBFLOW. NDICT	可	順編成 FB 94 940		2	1	
6	JOBFLOW. SEFILE	可	順編成 FB 150 6000		2	1	会話機能を使用する 場合
7	JOBFLOW. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	日本語名標辞書デー タ変換プログラム を使用する場合 ◆参照→14
8	JOBFLOW. UTYJCL	可	順編成 FB 80 3120		2	1	日本語名標辞書デー タ変換プログラム を使用する場合 ◆参照→14

## 11. インストールの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。なお、本ソフトウェアの Viewer 2 機能のインストールについては、CD-ROM内の Readme. textの「4. インストール手順」を参照されたい。

### 11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、JCLファイルの1メンバとして提供している。

#### 11.1.1 磁気テープ媒体からのローディング

磁気テープ媒体の提供JCLをローディングするジョブ制御文の例を図11.1に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB  DFJOB3, CLASS=H, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD  DSN=USERXXX, DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD  DSN=JOBFLOW. JCL, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
//        VOL=SER=DFJOB, LABEL=(1, SL)
//OUT01 DD  DSN=USER01. JOBFLOW. JCL, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
//        VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (2, 1, 2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.1 磁気テープ媒体からローディングするジョブ制御文(例)

#### 11.1.2 DVD媒体からのローディング

DVD媒体の提供JCLをローディングするジョブ制御文の例を図11.2に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB  DFJOB3, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD  DSN=USERXXX, DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD  DSN=JOBFLOW. JCL, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
//        VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD  DSN=USER01. JOBFLOW. JCL, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
//        VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (2, 1, 2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.2 DVD媒体からローディングするジョブ制御文(例)

#### [注意事項]

DVD媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD媒体からDASDへの転送については、DVD適用手引書を参照されたい。



## 11.2 インストール用ジョブ制御文の修正

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し実行する。

### 11.2.1 磁気テープ媒体からのインストール

磁気テープ媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.3に示す。提供 JCL ファイル中のメンバ名は 'INSTALL' である。下線部は修正箇所を示す。なお下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、日本語名標辞書データ変換プログラムを使用しない場合は、INST04、INST05のステップは実行しなくてよい。 ◆参照→14

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 ◆参照→5

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB JOBFLOW3,CLASS=H,MSGCLASS=R
//*****
//*   DF-JOBFLOW   インストール用JCL
//*****
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=JOBFLOW.LOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(2,SL)
//IN02 DD DSN=JOBFLOW.IMAGE,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(3,SL)
//IN03 DD DSN=JOBFLOW.FORMAT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(4,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.JOBFLOW.LOAD,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(51,1,33),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//OUT02 DD DSN=USER01.JOBFLOW.IMAGE,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//OUT03 DD DSN=USER01.JOBFLOW.FORMAT,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02,OUTDD=OUT02
COPY INDD=IN03,OUTDD=OUT03
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=JOBFLOW.NDICT,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(5,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.JOBFLOW.NDICT,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=JOBFLOW.SEFILE,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(6,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.JOBFLOW.SEFILE,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=JOBFLOW.UTYLOAD,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(7,SL)
//OUT01 DD DSN=USER01.JOBFLOW.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
//INST05 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=JOBFLOW.UTYJCL,UNIT=MT,DISP=(OLD,PASS),
//      VOL=SER=DFJOB,LABEL=(8,SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01.JOBFLOW.UTYJCL,UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図11.3 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文

<補足説明>

イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおり。

- データセット一覧・・・・・・・・・・'KOL1J110'
- ジョブフロー・・・・・・・・・・'KOL1J130'

### 11.2.2 DVD媒体からのインストール

DVD媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.4に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL2'である。下線部は修正箇所を示す。なお下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、日本語名標辞書データ変換プログラムを使用しない場合は、INST04、INST05のステップは実行しなくてよい。 ◆参照→14

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 ◆参照→5

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB  JOBFLOW3,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*   DF-JOBFLOW   インストール用JCL
//*****
//JOB CAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=JOBFLOW.LOAD,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN02 DD DSN=JOBFLOW.IMAGE,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN03 DD DSN=JOBFLOW.FORMAT,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01.JOBFLOW.LOAD,UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(51,1,33),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//OUT02 DD DSN=USER01.JOBFLOW.IMAGE,UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(2,1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//OUT03 DD DSN=USER01.JOBFLOW.FORMAT,UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02,OUTDD=OUT02
COPY INDD=IN03,OUTDD=OUT03
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=JOBFLOW.NDICT,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01.JOBFLOW.NDICT,UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSDGENER,REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=JOBFLOW.SEFILE,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01.JOBFLOW.SEFILE,UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY,REGION=512K
//IN01 DD DSN=JOBFLOW.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01.JOBFLOW.UTYLOAD,UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX,SPACE=(TRK,(1,1,1),RLSE),DISP=(NEW,CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01,OUTDD=OUT01
/*
```

図11.4 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文(続く)

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//INST05 EXEC PGM=JSDGENER, REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=JOBFLOW.UTYJCL, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01.JOBFLOW.UTYJCL, UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (1, 1), RLSE), DISP=(NEW, CATLG)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図11.4 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文（続き）

<補足説明>

イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおり。

- データセット一覧 . . . . . 'K O L 1 J 1 1 0 '
- ジョブフロー . . . . . 'K O L 1 J 1 3 0 '

### 11.3 フォームオーバーレイソース

このソフトウェアではドキュメントの出力時にイメージライブラリを使用している。提供するイメージライブラリは、16インチ帳票用であり、デジタルスイッチの基準値を、垂直：4，水平：5で作成している。

そのため、これ以外の基準値で使用すると、プログラムの印字とオーバーレイがずれて出力される。その場合は、フォームオーバーレイソースのMANNER文を修正して、イメージライブラリを再作成する。

また、利用者独自のマークを表示する場合や、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合などにも、提供JCLファイルに入っているフォームオーバーレイのソースを修正して、利用者固有のイメージライブラリを作成できる。

フォームオーバーレイの修正及び登録方法は、“OSIV/MSP ADJUST 使用手引書”を参照されたい。図11.5にMANNER文の修正方法を示す。

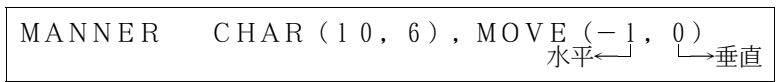


図11.5 MANNER文の修正方法

MANNER文にMOVEオペランドを追加し、水平及び垂直方向の位置を修正する。

フォームオーバーレイソースのJCLファイル中のメンバは下記のとおりである。

- データセット一覧・・・・・・・・・・'J110'
- ジョブフロー・・・・・・・・・・'J130'

注) フォームオーバーレイを登録する際に、PARMパラメタにZOOM指定を行う必要があるため、注意されたい。

#### 11.4 実行用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線部以外にも PARM パラメタ、SYSIN 制御文及びシステムに合わせて装置名の修正を行う。

##### 11.4.1 ジョブフロー出力機能用ジョブ制御文の修正

ジョブフロー出力機能用ジョブ制御文を図11.6に示す。提供 JCL ファイル中のメンバ名は 'JOBFLOW' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB DFJOB3, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.LOAD, DISP=SHR ----- ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR -----
// DD DSN=SYS1.TGSLIB, DISP=SHR ----- ③
//JOB CAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR ----- ④
//IMAGELIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.IMAGE, DISP=SHR, ----- ⑤
// VOL=SER=DASDXX, UNIT=SYSDA
//JOBFLOW EXEC PGM=JSMJ000, REGION=3072K,
// PARM='(JOBFLOW, SYSIN=5, GSP), HANYO, PRD, INDEX'
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTJCL'
@NOPT NAME='富士通 太郎'
@ROPT DD=SYSPRINT
/*
//JCLLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.JCL, DISP=SHR ----- ⑥
//**PRCLIB DD DSN=USER.PROC.LIB, DISP=SHR ----- ⑦
//JIMLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.NDICT, DISP=SHR ----- ⑧
//**ADLLIB DD DSN=USER.ADL.LIB, DISP=SHR ----- ⑨
//**FT72F001 DD DSN=USER.DF.KSTROKE, DISP=SHR ----- ⑩
//MPTMST DD DSN=SYS1.KPATNLIB, DISP=SHR ----- ⑪
//JSMHJ010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ020 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10518
//JSMHJ030 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ040 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ050 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ060 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10136
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK05 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHJMKJ DD SYSOUT=* ----- ⑫
//FT30F001 DD SYSOUT=* ----- ⑬
//**GDFILE DD SYSOUT=* ----- ⑭
//SYSOUT DD DUMMY
//STYPEF DD *
SYSDA D
TAPE M
MT M
FPD F } ----- ⑮
MSS L
CARD C
CTAPE T
CSMT S
/*
//

```

図11.6 ジョブフロー出力機能ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ T-GSPライブラリを指定する。実行時オプションKST指定時は，KING（グラフ・図形出力）／JEFの必要プログラムのライブラリを指定する。
- ④ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ⑤ イメージライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のJCLライブラリを指定する。
- ⑦ 解析されるJCLの必要に応じてプロシジャライブラリを指定する。
- ⑧ 日本語名標辞書を指定する。実行時オプションNOHANYO指定時は，指定する必要はない。
- ⑨ 解析されるJCLの必要に応じてADLライブラリを指定する。実行時オプションNOADL指定時は，指定する必要はない。
- ⑩ 漢字ストロークテーブルを指定する。実行時オプションGSP指定時は，指定する必要はない。
- ⑪ 文字パターンマスタファイルを指定する。実行時オプションKSTおよびGKS指定時は，指定する必要はない。
- ⑫ 目次の出力先を指定する。実行時オプションNOINDEX指定時は，指定する必要はない。
- ⑬ ジョブフロー図の出力先を指定する。実行時オプションKST指定時は，指定する必要はない。
- ⑭ ジョブフロー図の出力先を指定する。実行時オプションGSPおよびGKS指定時は，指定する必要はない。
- ⑮ 解析されるJCLの環境に合った装置変換テーブルを指定する。

#### 11.4.2 データセット一覧出力機能用ジョブ制御文の修正

データセット一覧出力機能用ジョブ制御文を図11.7に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'DATASET' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB DFJOB3, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.LOAD, DISP=SHR ----- ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR -----
//JOBCAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR ----- ③
//IMAGELIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.IMAGE, DISP=SHR, ----- ④
// VOL=SER=DASDXX, UNIT=SYSDA
//DATASET EXEC PGM=JSMJ0010, REGION=3072K,
// PARM='(DATASET), HANYO, PRD, INDEX'
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTJCL'
@NOPT NAME='富士通 太郎'
/*
//JCLLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.JCL, DISP=SHR ----- ⑤
//**PRCLIB DD DSN=USER.PROC.LIB, DISP=SHR ----- ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.NDICT, DISP=SHR ----- ⑦
//**ADLLIB DD DSN=USER.ADL.LIB, DISP=SHR ----- ⑧
//JSMHJ010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ020 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10518
//JSMHJ030 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ040 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ050 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK05 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHJMKJ DD SYSOUT=* ----- ⑨
//JSMHJLST DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//STYPEF DD *
SYSDA D ----- ⑩
/*
//

```

図11.7 データセット一覧出力機能ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ④ イメージライブラリを指定する。
- ⑤ 入力元のJCLライブラリを指定する。
- ⑥ 解析されるJCLの必要に応じてプロシジャライブラリを指定する。
- ⑦ 日本語名標辞書を指定する。実行時オプションNOHANYO指定時は，指定する必要はない。
- ⑧ 解析されるJCLの必要に応じてADLライブラリを指定する。実行時オプションNOADL指定時は，指定する必要はない。
- ⑨ 目次の出力先を指定する。実行時オプションNOINDEX指定時は，指定する必要はない。
- ⑩ 解析されるJCLの環境に合った装置変換テーブルを指定する。

### 11.4.3 JCL移出ファイル作成機能用ジョブ制御文の修正

JCL移出ファイル作成機能用ジョブ制御文を図11.8に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'ANLFLOW'である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB DFJOB3, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.LOAD, DISP=SHR ----- ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR -----
//JOBCAT DD DSN=USERXXX, DISP=SHR ----- ③
//ANLFLOW EXEC PGM=JSMJ0010, REGION=3072K,
// PARM='(ANLFLOW), HANYO, PRD'
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTJCL'
/*
//WINOUT DD DSN=USER.WIN.FILE, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), ----- ④
// VOL=SER=DASDXX, SPACE=(TRK, (50, 10)), UNIT=SYSDA
//JCLLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.JCL, DISP=SHR ----- ⑤
//**PRCLIB DD DSN=USER.PROC.LIB, DISP=SHR ----- ⑥
//JIMLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.NDICT, DISP=SHR ----- ⑦
//**ADLLIB DD DSN=USER.ADL.LIB, DISP=SHR ----- ⑧
//JSMHJ010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ020 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10518
//JSMHJ030 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ040 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ050 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10600
//JSMHJ060 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=BLKSIZE=10136
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK04 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SORTWK05 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//STYPEF DD *
SYSDA D
TAPE M
MT M
FPD F
MSS L
CARD C
CTAPE T
CSMT S
} ----- ⑨
/*
//

```

図11.8 JCL移出ファイル作成機能ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ④ JCL移出ファイルの出力先を指定する。処理対象資産が多い場合はブロック化指定を行うと処理性能が向上する。ブロック化する場合は' DCB=(RECFM=FB, LRECL=4096, BLKSIZE=20480) 'を指定する。
- ⑤ 入力元のJCLライブラリを指定する。
- ⑥ 解析されるJCLの必要に応じてプロシジャライブラリを指定する。
- ⑦ 日本語名標辞書を指定する。実行時オプションNOHANYO指定時は, 指定する必要はない。
- ⑧ 解析されるJCLの必要に応じてADLライブラリを指定する。実行時オプションNOADL指定時は, 指定する必要はない。
- ⑨ 解析されるJCLの環境に合った装置変換テーブルを指定する。



#### 11.4.4 マクロ名チェック機能用ジョブ制御文の修正

マクロ名チェック機能用ジョブ制御文を図11.9に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'CHECK' である。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB DFJOB3, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.LOAD, DISP=SHR ----- ①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR -----
//CHECK EXEC PGM=JSMJ0010, REGION=30724K,
// PARM='(CHECK) '
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTJCL1'
@MOPT MEMBER='TESTJCL2'
/*
//JCLLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.JCL, DISP=SHR ----- ③
//PRCLIB DD DSN=USER.PROC.LIB, DISP=SHR ----- ④
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

図11.9 マクロ名チェック機能ジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。

注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

- ③ 入力元のJCLライブラリを指定する。
- ④ プロシジャライブラリを指定する。

11.5 画面情報マスタファイルの修正

このソフトウェアを画面との会話形式で稼働させるための画面情報マスタファイルの修正方法を以下に説明する。画面情報マスタファイルを図11.10 に示す。 ◆参照【1】5.4.1

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8-----+
SIMPLIA/DF-JOBFLOW V23L60 画面情報マスタファイル
NAME 担当者名を入力して下さい（日本語 8文字以内）

```

担当者名			
N	富士通 太郎		

I/O 実行時の入出力を指定して下さい  
 選 に Sを指定することで入出力が選べます

機能	選	識別	入出力内容説明
F		JOBFLOW	ジョブフロー図出力
F	S	PRCLIB	入力 プロシジャライブラリ
F		JIMLIB	入力 日本語名標辞書（順編成）
F		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書（V S A M）
F	S	JSMHJKJ	出力 目次
F		DATASET	データセット一覧出力
F	S	PRCLIB	入力 プロシジャライブラリ
F		JIMLIB	入力 日本語名標辞書（順編成）
F		JIMLIB1	入力 日本語名標辞書（V S A M）
F	S	JSMHJKJ	出力 目次

SYSTEM システムライブラリを指定して下さい  
 DSN にはデータセット名 を44文字以内で指定して下さい  
 VOL にはボリューム通し番号を 6文字以内で指定して下さい  
 識別 JOBLIB には10定義指定できます。その他は 5定義です

識別	DSN 名/VOL 通番
S	DF-JOBFLOWが動作する為の必須P. Pが格納されているライブラリを指定す
S	USER01. JOBFLOW. LOAD ①
S	DSN
S	VOL
S	SYS1. C85. COBLIB ②
S	DSN
S	VOL
S	SYS1. ADJUST. LINKLIB
S	DSN
S	VOL
S	SYS1. TGSLIB ③
S	DSN
S	VOL
S	JOBCAT
S	使用する日本語名標辞書がユーザカタログを使用している場合、ユーザカ
S	DSN
S	VOL
S	USERXXX ④
S	DSN
S	VOL
S	IMAGELIB
S	フォームオーバーレイが格納されているライブラリを指定する
S	DSN
S	VOL
S	USER01. JOBFLOW. IMAGE ⑤
S	DSN
S	VOL
S	FT72F001
S	漢字ストロークテーブルを指定する
S	DSN
S	VOL
S	USER. DF. KSTROKE ⑥
S	DSN
S	VOL
S	MPTMST
S	文字パターンマスタを指定する
S	DSN
S	VOL
S	SYS1. KPATNLIB ⑦

INPUT 入力ライブラリを指定して下さい  
 DSN にはデータセット名 を44文字以内で指定して下さい  
 VOL にはボリューム通し番号を 6文字以内で指定して下さい  
 各識別には 5定義指定できます

識別	DSN 名/VOL 通番
I	JCLLIB
I	J C Lライブラリを指定する
I	DSN
I	VOL
I	USER01. JOBFLOW. JCL ⑧
I	PRCLIB
I	プロシジャライブラリを指定する
I	DSN
I	VOL
I	JIMLIB
I	日本語名標辞書を指定する
I	DSN
I	VOL
I	USER01. JOBFLOW. NDICT ⑨

図11.10 画面情報マスタファイル（続く）

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----
I |          | VOL |
I |          |

```

OUTPUT 出力ライブラリを指定して下さい  
 DSN にはデータセット名 を44文字以内で指定して下さい  
 VOL にはボリューム通し番号を 6文字以内で指定して下さい  
 単位には 1:CYLか 2:TRK を数字で指定して下さい  
 初期には初期量 を 8文字以内で指定して下さい  
 増分には増分量 を 8文字以内で指定して下さい  
 CLASには帳票の出力クラス を 1文字で指定して下さい  
 CLAS, DSNが同時指定された場合はDSNを有効とします

識別	出力クラス/DSN名/VOL通番/単位/初期量/増分量
0000000000	GDFILE KING使用時のジョブフロー図の出力先を指定する * _____ ⑩ CLAS DSN VOL 単位 2 初期 100 増分 100
0000000000	FT30F001 T-G S P使用時のジョブフロー図の出力先を指定する * _____ ⑪ CLAS DSN VOL 単位 2 初期 100 増分 100
0000000000	JSMHJLST データセット一覧の出力先を指定する * _____ ⑫ CLAS DSN VOL 単位 2 初期 100 増分 100
0000000000	JSMHJMKJ 目次の出力先を指定する * _____ ⑬ CLAS DSN VOL 単位 2 初期 100 増分 100
0000000000	SYSPRINT 実行結果リストの出力先を指定する * _____ ⑭ CLAS DSN VOL 単位 2 初期 100 増分 100

WORK ワークライブラリを指定して下さい  
 単位には 1:CYLか 2:TRK を数字で指定して下さい  
 初期には初期量 を 8文字以内で指定して下さい  
 増分には増分量 を 8文字以内で指定して下さい

識別	単位/初期量/増分量
WWWJSMHJ010	プログラム内ワークデータセットを指定する 単位 2 初期 10 増分 10
WWWJSMHJ020	プログラム内ワークデータセットを指定する 単位 2 初期 10 増分 10
WWWJSMHJ030	プログラム内ワークデータセットを指定する 単位 2 初期 10 増分 10
WWWJSMHJ040	プログラム内ワークデータセットを指定する 単位 2 初期 10 増分 10
WWWJSMHJ050	プログラム内ワークデータセットを指定する 単位 2

図11.10 画面情報マスタファイル (続く)

	1	2	3	4	5	6	7	8
W		初期	10					
W		増分	10					
W	JSMHJ060			プログラム内ワークデータセットを指定する				
W		単位	2					
W		初期	10					
W		増分	10					
W	SORTWK01			ソート用ワークデータセットを指定する				
W		単位	2					
W		初期	10					
W		増分	10					
W	SORTWK02			ソート用ワークデータセットを指定する				
W		単位	2					
W		初期	10					
W		増分	10					
W	SORTWK03			ソート用ワークデータセットを指定する				
W		単位	2					
W		初期	10					
W		増分	10					
W	SORTWK04			ソート用ワークデータセットを指定する				
W		単位	2					
W		初期	10					
W		増分	10					
W	SORTWK05			ソート用ワークデータセットを指定する				
W		単位	2					
W		初期	10					
W		増分	10					

PARM 実行条件を指定して下さい

実行条件	実行条件内容説明
P 1	<b>【ジョブフロー図出力実行条件】</b>
P 5	1:JOBFLOWとDATASET 2:JOBFLOW 3:JOBFLOWとJCL
P 1	0~60:JCL印刷時のSYSIN 展開行数
P 2	0:出力時から継続 1:全て継続
P 0	1:KING+KST使用 2:T-GSP使用 3:T-GSP+KST使用
P	0:提供FOP使用 1:利用者作成FOP使用
P	:利用者作成FOP名
P 2	<b>【データセット一覧出力実行条件】</b>
P 0	1:英数字順 2:日本語順
P	0:提供FOP使用 1:利用者作成FOP使用
P	:利用者作成FOP名
P 0	<b>【全機能共通実行条件】</b>
P 1	0:VTOCを取得しない 1:VTOCを取得する
P P	1:JCLはPFDFで作成/更新 2:JCLはAPDFで作成/更新
P 0	P:PERIOD分割 1~30:DSN名変換単位文字数
P 8	0~9:DSN名変換対象外の先頭文字数
P 0	1~8:JOB/PROGRAM名変換単位文字数
P 0	0~8:JOB/PROGRAM名変換対象外の先頭文字数
P	0:JCLPASSWORD指定なし 1:JCLPASSWORD指定あり
P	:JCLPASSWORD
P 3072	:リージョンサイズ

YOKUSEI 抑制DD名を指定して下さい  
 ジョブフロー図に出力しないDD名を指定します  
 (英数字 8文字以内, 最大14個)

抑制DD名
Y SYSPRINT

TBL 装置変換テーブルを定義して下さい  
 定義できる装置変換テーブル数は最大30個です

DASD 標準DASD  
 MT 磁気テープ装置  
 CARD カード読取り装置  
 CMT カートリッジライブラリ  
 FPD フロッピーディスク  
 PRT プリンタ出力装置  
 TAPE 紙テープ読取り装置  
 CST カセット

図11.10 画面情報マスタファイル (続く)

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----			
装置種別	装置名		
T	DASD	SYSDA	} _____ ⑮
T	MT	TAPE	
T	MT	MT	
T	FPD	FPD	
T	CMT	MSS	
T	CARD	CARD	
T	TAPE	CTAPE	
T	CST	CSMT	
JOB      J O B 文を67カラム以内で指定して下さい			
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----			
J	//USER01A	JOB	DFJOB3, CLASS=A, MSGCLASS=R _____ ⑯
J	//*		
J	//*		
J	//*		

図11.10 会話機能画面情報マスタファイル (続き)

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは, 指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ T-GSPライブラリを指定する。実行条件をKING+KST使用とした場合はKING (グラフ・図形出力) / JEFの必要プログラムのライブラリを指定する。
- ④ 必要に応じてVSAM用のユーザカタログを指定する。
- ⑤ イメージライブラリを指定する。
- ⑥ 漢字ストロークテーブルを指定する。実行条件でKING+KST使用またはT-GSP+KST使用とした場合に実行JCLに反映される。不要の場合はDUMMYを指定する。
- ⑦ 文字パターンマスタファイルを指定する。実行条件でT-GSP使用とした場合に実行JCLに反映される。不要の場合はDUMMYを指定する。
- ⑧ 入力元のJCLライブラリを指定する。
- ⑨ 日本語名標辞書を指定する。I/O選択でJIMLIB, JIMLIB1を選んだ場合に実行JCLに反映される。
- ⑩ ジョブフロー図の出力先を指定する。実行条件でKING+KST使用とした場合に実行JCLに反映される。
- ⑪ ジョブフロー図の出力先を指定する。実行条件でT-GSP使用またはT-GSP+KST使用とした場合に実行JCLに反映される。
- ⑫ データセット一覧の出力先を指定する。処理選択画面で2. データセット一覧を選んだ場合に実行JCLに反映される。
- ⑬ 目次の出力先を指定する。I/O選択でJSMHJKJを選んだ場合に実行JCLに反映される。
- ⑭ 実行結果リストの出力先を指定する。
- ⑮ 解析されるJCLの環境に合った装置変換テーブルを指定する。
- ⑯ JOB文の修正を行う。

11.6 画面起動用コマンドプロシジャの修正

このソフトウェアを画面との会話形式で稼働させるための起動用コマンドプロシジャの修正方法を以下に説明する。画面起動用コマンドプロシジャを図11.11 に示す。提供 J C L ファイル中のメンバ名は 'CLIST' である。 ◆参照【1】 5.4.2

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
PROC 0 PRJ(&SYSUID) FCB( ) MVOL(DASDXX) UVOL(DASDXX)
                ①          ②          ③
CONTROL NOCONLIST NOMSG NOLIST NOFLUSH
SET  &MFILE=USER01.JOBFLOW.SEFILE _____ ④
SET  &LM=USER01.JOBFLOW.LOAD _____ ⑤
SET  &LMFMT=USER01.JOBFLOW.FORMAT _____ ⑥
SET  &COBLIB=SYS1.C85.COBLIB _____ ⑦
SET  &APEFLIB=SYS1.APEFLIB _____
SET  &UTYLIB=SYS1.C85.LINKLIB _____
SET  &ADJUST=SYS1.ADJUST.LINKLIB _____
SET  PRJ=&PRJ
LIB  ('&COBLIB' +
      '&APEFLIB' +
      '&UTYLIB' +
      '&ADJUST' )
FREE F(JSMHJ090 LOAD JSMJD SYSOUT)
ALLOC F(SYSOUT) DA(*)
ALLOC F(JSMHJ090) DA('&MFILE') VO(&MVOL) SHR
IF &LASTCC ^=00 THEN +
DO
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
GOTO OWARI
END
ALLOC F(LOAD) DA('&LM') SHR
IF &LASTCC ^=00 THEN +
DO
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
GOTO OWARI
END
ALLOC F(JSMJD) DA('&LMFMT') SHR
IF &LASTCC ^=00 THEN +
DO
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
WRITE
```

J S M J D 0 9 4 - U  
画面情報マスタファイルの割当てに失敗しました

J S M J D 0 9 6 - U  
プログラムライブラリの割当てに失敗しました

J S M J D 0 9 5 - U  
フォーマットライブラリの割当てに失敗しました

図11.11 画面起動用コマンドプロシジャ (続く)

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
      GOTO OWARI
      END
      CALL  ' &LM(JSMJ8000)' ' &PRJ, &UVOL, &SYSUID, &FCB'
      OWARI: +
      FREE  F(JSMHJ090 LOAD JSMJD SYSOUT)
      LIB

```

図11.11 画面起動用コマンドプロシジャ（続き）

- ① 会話形式で作成される実行JCLの帳票ファイルのDD文（JSMHJLST, JSMHJMKJ, SYSPRINT）に6LP I用の用紙制御イメージ識別名を付加したい場合に指定する。  
括弧内を省略した場合は、'STD2'を省略値とする。
  - ② 画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する。
  - ③ 画面情報ユーザファイルのボリューム通し番号を指定する。画面情報ユーザファイルが存在しない場合は指定されたボリュームに作成される。実行JCL作成用ファイルも同じボリュームに作成され、SUBMIT後削除される。
  - ④ 画面情報マスタファイルを指定する。
  - ⑤ ロードモジュールライブラリを指定する。
  - ⑥ 画面フォーマットライブラリを指定する。
  - ⑦ COBOL85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。  
ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。
- 注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。

## 12. 使用上の注意事項

このソフトウェアの注意事項のうち、主要なものを説明する。その他の注意事項については、適用マニュアルを参照されたい。

### 12.1 日本語ラインプリンタの第2FPDについて

ジョブフロー出力機能では、実行時オプションKST指定の場合にKING（グラフ・図形出力）／JEFを使用して図の出力を行なう。

KING（グラフ・図形出力）／JEFでは、日本語ラインプリンタに第2FPDがセットされていると日本語ラインプリンタの文字発生機構に第2FPDの収容部分の文字がイニシャルローディングされてKING（グラフ・図形出力）／JEFで使用可能なエリアが狭まる。

その状態でジョブフローを日本語ラインプリンタへ出力すると、日本語ラインプリンタが文字発生機構への二重登録又はメモリオーバで異常終了する可能性があるため、ジョブフロー出力機能を使用する場合は、日本語ラインプリンタの第2FPDの使用を禁止している。

異常終了した場合は、第2FPDをはずして、日本語ラインプリンタの再起動が必要である。

また、ジョブフローを出力する場合は、JES初期化文の&SELFUNCでKNGCLRパラメタを指定しなければならない。KNGCLRパラメタの詳細については、“OSIV/MSP 運用手引書 JES編”を参照されたい。

### 12.2 フォームオーバーレイの出力

本ソフトウェアでは、COBOLの制御レコードを使用してフォームオーバーレイの焼付けを行っているので、JES初期化文の出力クラスの特性の定義で、GRAPHパラメタを指定しなければならない。

GRAPHパラメタが指定されていない場合は、フォームオーバーレイは出力されない。GRAPHパラメタの詳細については、“OSIV/MSP 運用手引書 JES編”を参照されたい。

### 12.3 日本語名標辞書

日本語名標辞書のファイル編成は、順編成、又はVSAMで作成できるが、性能上VSAMが望ましい。

### 12.4 CLPでの出力

CLPの印刷モードには、NativeモードとNLPモードの2種類があるが、NLPと同様の印刷禁止領域の制御を行う為には、NLPモードを指定する。



### 13. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の手順を説明する。

#### 13.1 バッチ稼働確認

##### 13.1.1 ジョブフロー出力機能の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ'JOBFLOW'を修正し、メンバ'TESTJCL'を入力として実行する。

###### a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 ◆参照→11.4.1

正常に稼働した場合には、図13.1及び図13.2と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を利用しない場合は日本語名は出力されない。

- PARMパラメタに' (JOBFLOW, SYSIN=5, GSP), HANYO, PRD, INDEX'を指定する。
- SYSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTJCL', @NOPT制御文にNAME='富士通 太郎', @ROPT制御文にDD=SYSPRINTを指定する。
- JCLLIB DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書を指定する。

###### b) 出力内容の説明(目次)

SIMPLIA/DF-JOBFLOW V23L60				日付 ①	時刻 ②	PAGE	1		
ジョブフロー				<< 目次 >>		作成年月日:	年 ③ 月 日		
SEQ.	メンバ名(A/N)	メンバ名(日本語)	最新更新日	ページ	SEQ.	メンバ名(A/N)	メンバ名(日本語)	最新更新日	ページ
1	TESTJCL	テストJCL	2017. 7. 3	1					

図13.1 ジョブフローの稼働確認ドキュメント(目次)

- ① DF-JOBFLOWを実行した日付が出力される。
- ② DF-JOBFLOWを実行した時刻が出力される。
- ③ DF-JOBFLOWを実行した日付が出力される。

c) 出力内容の説明 (ジョブフロー)

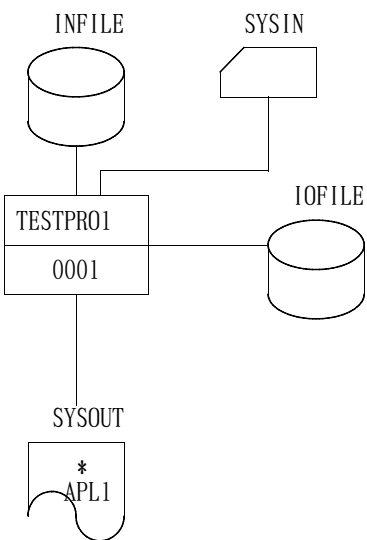
ジョブフロー		メンバ名	データセット名	制御文更新日	帳票作成日	担当	メバ内ページ	通しページ																														
		TESTJCL	①	②	③	④	1	1																														
ジョブ名	実行 JCL 1	ジョブID	USER01A	処理サイクル																																		
注 釈	<p>JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R, NOTIFY=USER01</p> <p>JOBCAT USERXXX</p>  <p>STEP1 :TESTPRO1 : テストプログラム 1          STEPLIB USER01. TEST. LOAD</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>DD名</th> <th>データセット名</th> <th>LRECL BLKSIZE</th> <th>RECFM DSORG</th> <th>DISP VOLUME</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>INFILE</td> <td>USER01. TEST. INFILE 稼働テスト入力</td> <td></td> <td></td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>SYSIN</td> <td>*</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SYSOUT</td> <td>SYSOUT=*, FLASH=APL1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SYSPRINT !</td> <td>SYSOUT=*</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IOFILE</td> <td>USER01. TEST. IOFILE 稼働テスト入出力</td> <td>80 3120</td> <td>FB PS</td> <td>ND WORK01</td> </tr> </tbody> </table> <p>//SYSIN DD *          DATA1 MEM001          DATA2 MEM002          DATA3 MEM003</p>								DD名	データセット名	LRECL BLKSIZE	RECFM DSORG	DISP VOLUME	INFILE	USER01. TEST. INFILE 稼働テスト入力			S	SYSIN	*				SYSOUT	SYSOUT=*, FLASH=APL1				SYSPRINT !	SYSOUT=*				IOFILE	USER01. TEST. IOFILE 稼働テスト入出力	80 3120	FB PS	ND WORK01
DD名	データセット名	LRECL BLKSIZE	RECFM DSORG	DISP VOLUME																																		
INFILE	USER01. TEST. INFILE 稼働テスト入力			S																																		
SYSIN	*																																					
SYSOUT	SYSOUT=*, FLASH=APL1																																					
SYSPRINT !	SYSOUT=*																																					
IOFILE	USER01. TEST. IOFILE 稼働テスト入出力	80 3120	FB PS	ND WORK01																																		
版	日付	変更内容	備 考	DISPの省略形																																		
				S:SHR	C:CATLG	K:KEEP																																
				N:NEW	D:DELETE	P:PASS																																
				O:OLD	U:UNCATLG	M:MOD																																

図13.2 ジョブフローの稼働確認ドキュメント (ジョブフロー)

- ① データセット名に提供 JCL ファイル名が出力される。
- ② 制御文更新日に入力元 'TESTJCL' の更新日が出力される。
- ③ 帳票作成日に DF-JOBFLOW を実行した日付が出力される。
- ④ 担当に '富士通 太郎' と出力される。

### 13.1.2 データセット一覧出力機能の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ'DATASET'を修正し、メンバ'TESTJCL'を入力として実行する。

#### a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 ◆参照→11.4.2

正常に稼働した場合には、図13.3及び図13.4と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。ただし、日本語名標辞書を利用しない場合は日本語名は出力されない。

- PARMパラメタに'(DATASET, SORT=N), HANYO, PRD, INDEX'を指定する。
- SYSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTJCL', @NOPT制御文にNAME='富士通 太郎'を指定する。
- JCLLIB DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書を指定する。

#### b) 出力内容の説明(目次)

SIMPLIA/DF-JOBFLOW V23L60	日付 ①	時刻 ②	PAGE	1			
データセット一覧	<< 目次 >>		作成年月日:	年 ③ 月 日			
SEQ. メンバ名(A/N)	メンバ名(日本語)	最新更新日	ページ	SEQ. メンバ名(A/N)	メンバ名(日本語)	最新更新日	ページ
1	TESTJCL	テストJCL	2017. 7. 3	1			

図13.3 データセット一覧の稼働確認ドキュメント(目次)

- ① DF-JOBFLOWを実行した日付が出力される。
- ② DF-JOBFLOWを実行した時刻が出力される。
- ③ DF-JOBFLOWを実行した日付が出力される。

c) 出力内容の説明（データセット一覧）

データセット一覧		メンバ名	データセット名	制御文更新日	帳票作成日	担当	ムバ内ページ	通しページ
		TESTJCL	①	②	③	④	1	1
NO	データセット名	データセットID	DD 形 式	編 成 装 置 名	レコード長 ブロック長	容量	プログラム名	備考
1	S L ユーザ	USERXXX	JOB CAT					
2	稼働テスト入力	USER01.TEST.INFILE	INFILE				TESTPRO1	
3	稼働テスト入出力	USER01.TEST.IOFILE	IOFILE FB	PS SYSDA	80 3120	10TR	TESTPRO1	
4	稼働テストロード	USER01.TEST.LOAD	STEPLIB				TESTPRO1	
5		*	SYSIN				TESTPRO1	
6		SYSOUT=*, FLASH=APL 1	SYSOUT				TESTPRO1	
7		SYSOUT=*	SYS PRINT				TESTPRO1	
~~~~~								
~~~~~								
版	日付	変更内容			備			
					考			

図13.4 データセット一覧の稼働確認ドキュメント（データセット一覧）

- ① データセット名に提供JCLファイル名が出力される。
- ② 制御文更新日に入力元 'TESTJCL' の更新日が出力される。
- ③ 帳票作成日にDF-JOBFLOWを実行した日付が出力される。
- ④ 担当に '富士通 太郎' と出力される。

### 13. 1. 3 JCL移出ファイル作成機能の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ'ANLFLOW'を修正し、メンバ'TESTJCL'を入力として実行する。また、Windows上でジョブフロー図等を表示する場合、同時にViewer 2機能の稼働確認も必要である。Viewer 2機能の稼働確認については、オンラインマニュアルの“使用方法「サンプル資産からドキュメントを出力するときは. . .」”を参照されたい。

ただし、Windows上でジョブフロー図等の表示を行わない場合、この稼働確認は不要である。

#### a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 ◆参照→11. 4. 3

- PARMパラメタに' (ANLFLOW), HANYO, PRD' を指定する。
- SYSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTJCL'を指定する。
- JCLLIB DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- JIMLIB DD文に、提供日本語名標辞書を指定する。

#### b) 出力内容の説明

ジョブ制御文の実行時にWINOUT DD文で記述したデータセットが作成されている。

### 13. 1. 4 マクロ名チェック機能の稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ'CHECK'を修正し、メンバ'TESTJCL1', 'TESTJCL2'を入力として実行する。

#### a) ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.4実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同様である。 ◆参照→11. 4. 4

- PARMパラメタに' (CHECK)' を指定する。
- SYSIN制御文の@MOPT制御文にMEMBER='TESTJCL1'及びMEMBER='TESTJCL2'を指定する。
- JCLLIB DD文に、提供JCLファイルを指定する。
- PRCLIB DD文に、提供JCLファイルを指定する。

#### b) 出力内容の説明

実行結果リストに以下のメッセージが出力される。

'JSMJC246-I 当メンバには、不明のプロシジャ名、または、マクロ名はありませんでした。処理メンバ名=TESTJCL1'

'JSMJC247-W プロシジャが見つかりません。処理メンバ名=TESTJCL2, プロシジャ名=TESTPROC'

### 13.2 画面稼働確認

提供JCLファイル中のメンバ'CLIST'を修正及び、提供画面情報マスタファイルの修正を行った後、TSS端末のREADY状態より画面を起動させる。

#### a) 画面起動用コマンドプロシジャの修正

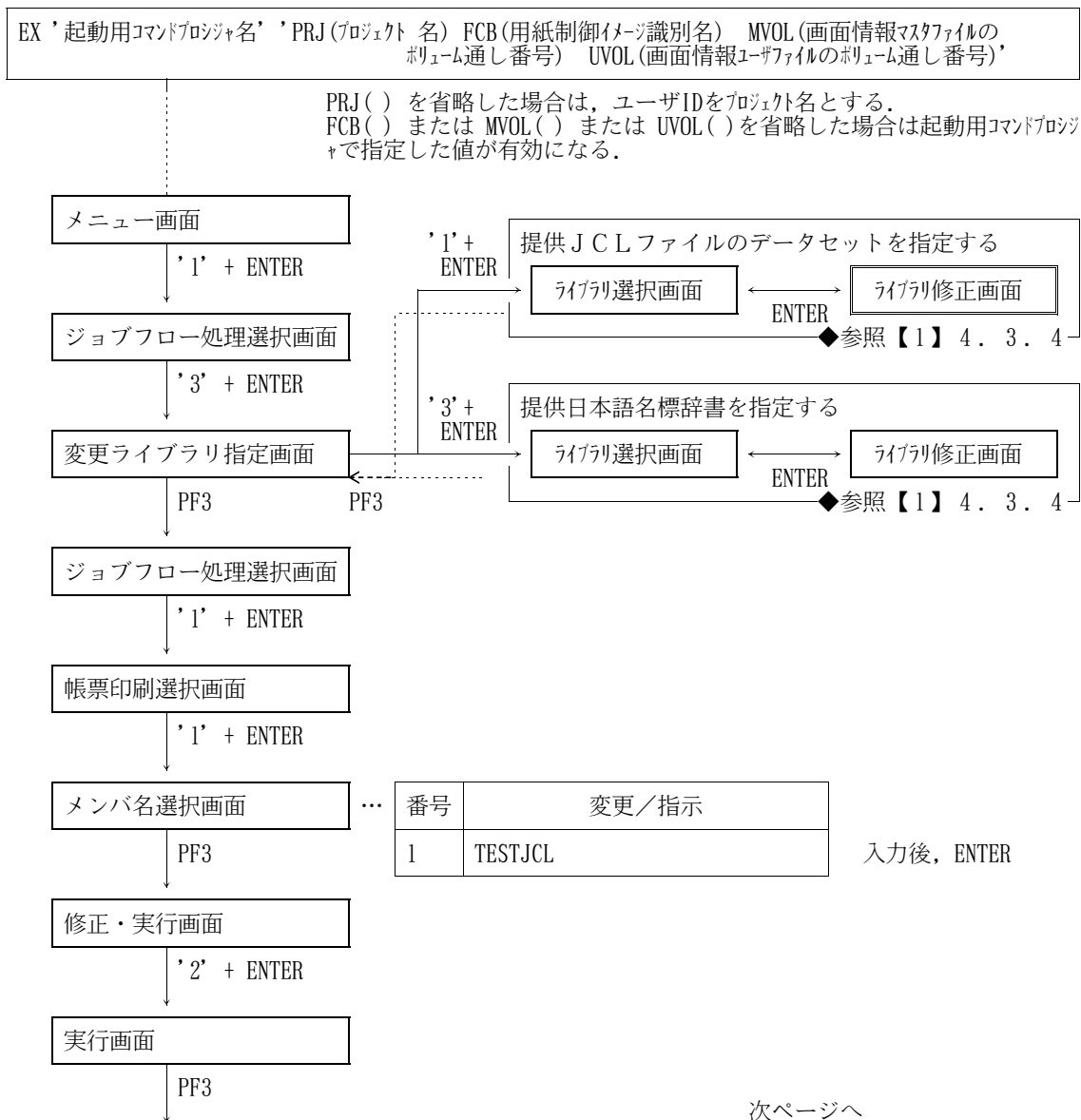
稼働確認のための起動用コマンドプロシジャの修正箇所を説明する。説明以外の箇所は、“11.6画面起動用コマンドプロシジャの修正”で修正した内容と同様である。

- '&MFILE'に提供画面情報マスタファイルのファイル名を指定する。
- 'FCB()'に6LPI用の用紙制御イメージ識別名を指定する。
- 'MVOL()'に提供画面情報マスタファイルのボリューム通し番号を指定する。
- 'UVOL()'に画面情報ユーザファイル、起動用JCL作成ファイルのボリューム通し番号を指定する。

#### 13.2.1 画面起動によるジョブフロー出力の稼働確認

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である。説明以外の箇所は図13.5の会話形式を用いて修正する。

正常に稼働した場合には、図13.1及び図13.2と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。



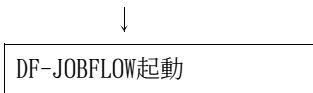


図13.5 ジョブフロー出力の画面遷移及びオペレーション例

1 3 . 2 . 2 画面起動によるデータセット一覧出力の稼働確認

稼働確認のための画面情報マスタファイルの修正箇所は“11.5画面情報マスタファイルの修正”で修正した内容と同様である。説明以外の箇所は図13.6の会話形式を用いて修正する。

正常に稼働した場合には、図13.3及び図13.4と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

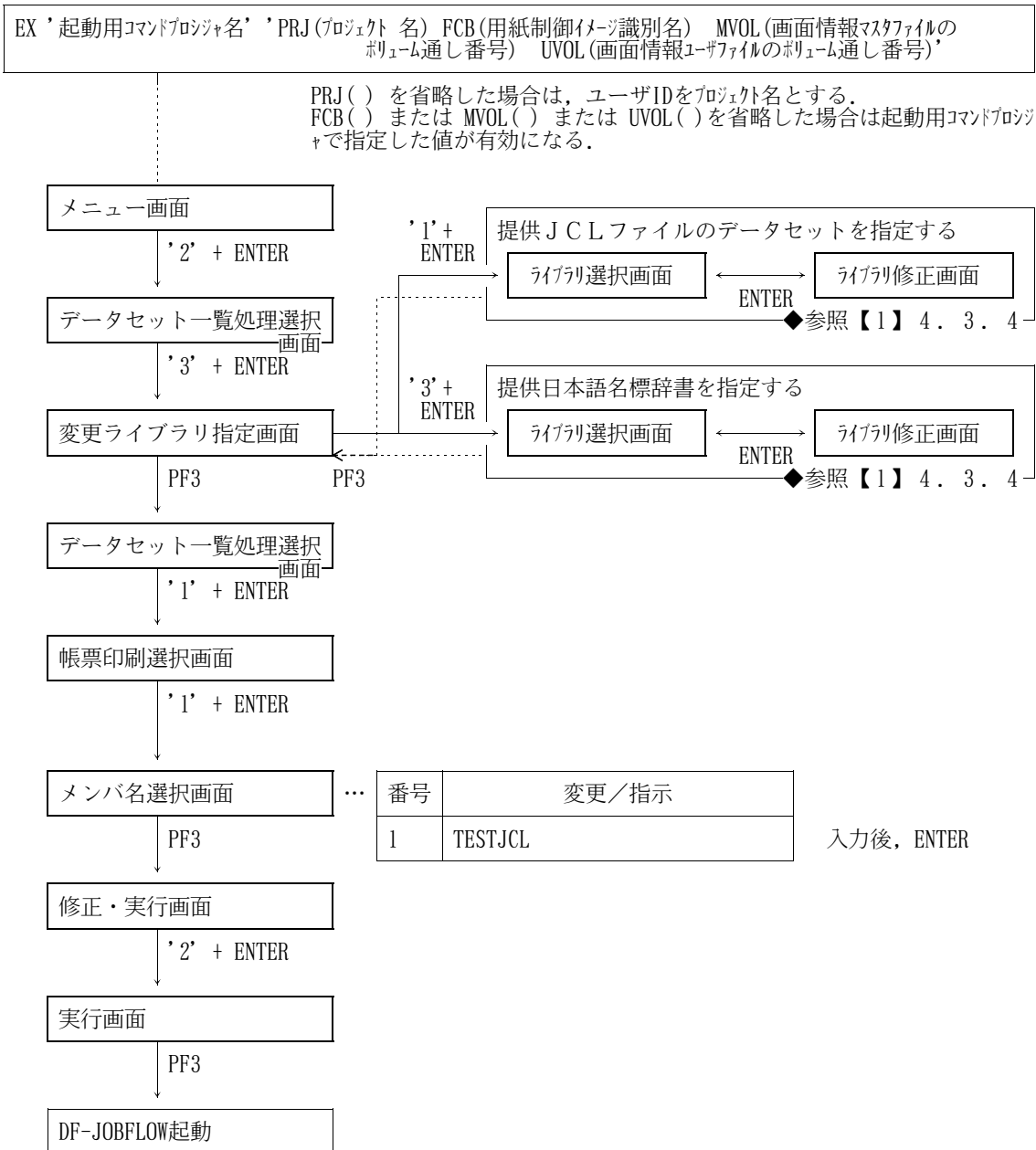


図13.6 データセット一覧出力の画面遷移及びオペレーション例

#### 14. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に、日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号7番でロードモジュールを、格納番号8番でジョブ制御文を提供している。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、本ソフトウェアで使用されたい。

##### A) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図14.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については適用マニュアルを参照されたい。 ◆参照【1】5.3.2

##### 【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

##### 【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図14.1 フォーマットの変換方法

##### 1) キー部

###### ー 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

###### ー 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

##### 2) レコード数

レコード数に01が設定される。

##### 3) 有効文字数

有効文字数に30が設定される。

##### 4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

##### 5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。



B) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図14.2に示す。

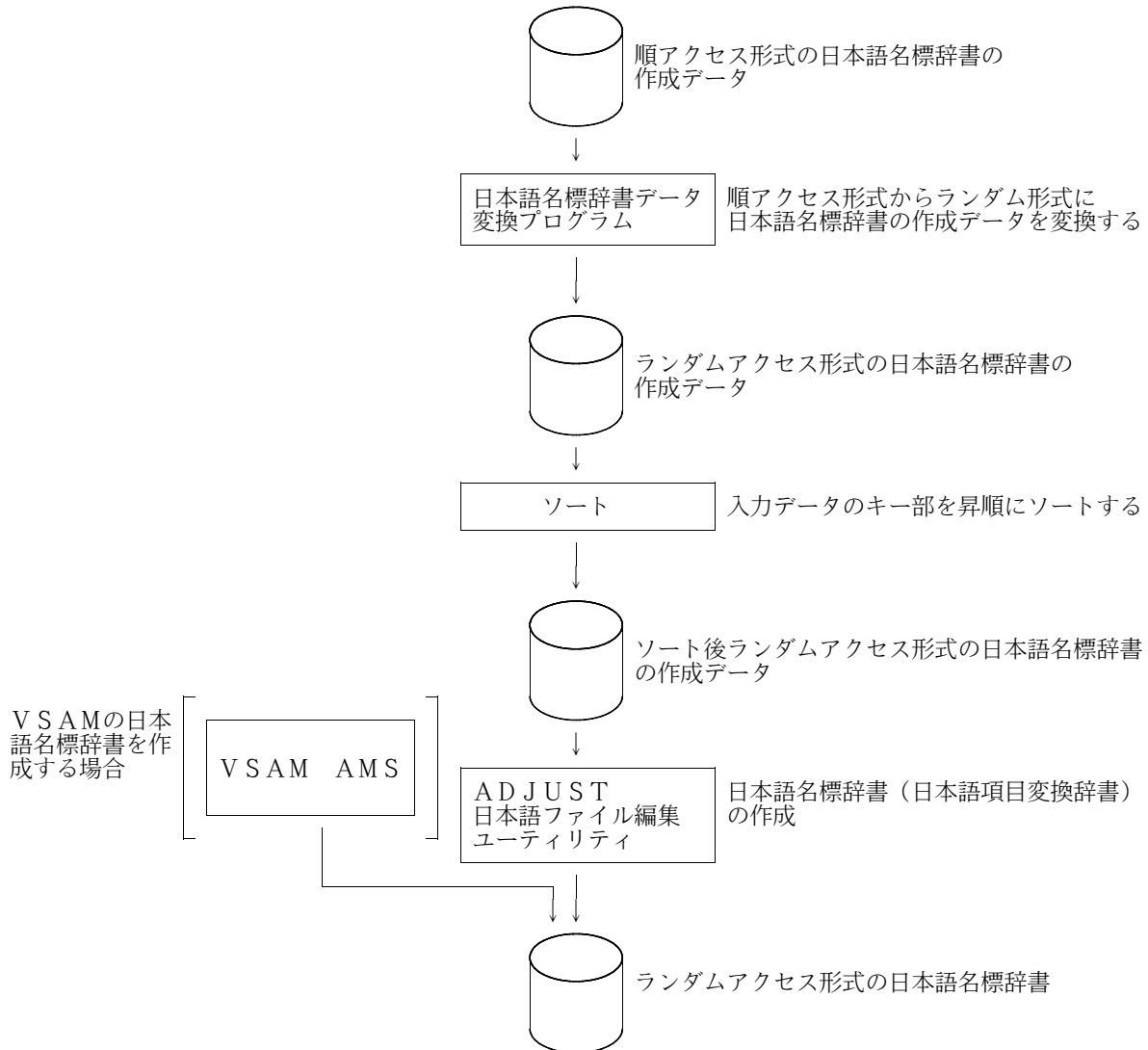


図14.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

C) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文を図14.3に示す。下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01K JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          日本語名標辞書      再作成          *
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01.JOBFLOW.UTYLOAD,DISP=SHR -----①
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR -----②
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR -----③
//JOBCAT DD DSN=USERXXX,DISP=SHR
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=960K
    
```

図14.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例（続く）

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEF CLUSTER
(NAME (USER. RAN. NDICT) ----- ⑤ -
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS (30 0) -
IMBED -
VOLUMES (DASDXX) ----- ④ -
TRK (5) ----- ⑥ -
RECORDSIZE (124 124)) -
DATA -
(NAME (USER. RAN. NDICT. DATA)) ----- ⑦ -
INDEX -
(NAME (USER. RAN. NDICT. IDX)) ----- ⑧ -
/*
//*****
/** 日本語名標辞書 入力データ変換 J C L *
/** 順アクセス→ランダムアクセス *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMJDICT
//JSMJJUN DD DSN=USER. JUN. NDATA, DISP=SHR ----- ⑨
//JSMJRAN DD DSN=&&RAN, DISP=(,PASS), UNIT=SYSDA,
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240),
// SPACE=(TRK, (10, 10)) ----- ⑩
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*
//*****
/** ソート *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT, REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&DFJOB, DISP=(, PASS), UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK, (50, 50)), ----- ⑩
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1, 30, CH, A)
/*
//*****
/** 日本語ファイル編集ユーティリティ *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE, REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT (JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN (CHGLIB)
- END
/*
//JAFLIB DD DSN=USER. RAN. NDICT, DISP=SHR ----- ⑪
//CHGLIB DD DSN=&&DFJOB, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//

```

図14.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例 (続き)

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが、格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 8 5 ライブラリ及びADJUSTのライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ VSAMの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑤ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。

- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のV S A Mデータセットの割当て容量を指定する.
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する.
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する.
- ⑨ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのデータセットを指定する.
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する.
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセットを指定する.

V S A Mの場合は, ⑤のクラスタ名を指定し, 順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は, レコードが1 2 4バイトの固定長ブロック化形式のデータセットを指定する.

#### D) 注意事項

本プログラムの使用上の注意事項を説明する.

- ー キー部のデータに重複しているものがあるなど入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても, 本プログラムはチェック及びエラー処理を行わないので, そのまま変換される.
- ー ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは2 8バイト以内でなければならないので, 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に2 9バイト以上のデータがある場合, 2 9バイト以降が切り捨てて変換される.

## 15. 注意事項

DF-JOBFLOWの注意事項を示す。注意事項の詳細は、適用マニュアルを参照されたい。

◆参照【1】5.7

会話形式でのDF-JOBFLOWの起動では、起動用JCLを画面情報ユーザファイルの同一のボリューム通し番号に作成するため、そのボリュームには空き領域が1トラック以上必要である。また、起動用JCLデータセット名と同一のデータセットが存在する場合は、削除される。

注) 起動用JCLデータセット名: '&ユーザID.JOBFLOW.KDJCL.CNTL'

データセット作成時のPREFIXは、ユーザIDと同一であること。

16. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称	マニュアルコード
OSIV SIMPLIA/DF-JOBFLOW 解説書	J1M0-9061-01

表16.1 適用マニュアルの正誤表 (続く)

項番	ページ	行・位置	旧記述 (誤)	新記述 (正)
1	19 36 44 47	a) 入力データセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロシジャライブラリ (MSP) 解析対象JCL がプロシジャ展開している場合に入力します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロシジャライブラリ (MSP) 解析対象JCL がプロシジャまたはインクルード展開している場合に入力します。</li> </ul>
2	19 44	2.1.1 機能説明順	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL 情報の取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL 情報の取得</li> <li>プログラム入出力情報の反映</li> </ul>
3	19 44	a) 入力データセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL ソースライブラリ ADL 解析指定をする場合に入力します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL ソースライブラリ ADL 解析指定をする場合に入力します。</li> <li>プログラム入出力情報ファイル プログラム入出力情報を反映する場合に入力します。</li> </ul>
4	20	2.1.1 機能	(記述追加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>m) プログラム入出力情報の反映 DF-PROGRAMで作成したプログラム入出力情報ファイルの入出力情報をジョブフロー図に反映します。 詳細については“2.5.10 プログラム入出力情報の反映”を参照して下さい。</li> </ul>
5	25  29	1) 帳票説明	<p>① 解析対象JCL 内のDD名.</p> <p>.....</p> <p>(記述追加)</p>	<p>① 解析対象JCL 内のDD名および装置種別に対応した装置記号 (注7)</p> <p>.....</p> <p>注7) 装置記号について ジョブフローに作画される装置記号は, “表2.14 装置記号と装置種別の対応”を参照して下さい。ただし, 連結されたデータセットは, いずれの装置種別も, 連結された標準DASDが作画されます。</p>
6	26	解析対象JCL を出力する場合	解析対象JCLの出力仕様を追加	◆参照 → 16.1
7	32	図2.4 データセットの継続例の説明	⑤, ⑥は, L, Pの含まれている出力データセットの個数が5以上のため, 継続子で継続されています。(注)	⑤, ⑥は, L, Pの含まれている出力データセットの個数が6以上のため, 継続子で継続されています。(注)
8	41	2.2.2 出力形式 1) 帳票説明	⑬から⑰の“}” 解析対象JCL に指定がないものはDASDのVTOCより情報を追加して出力できます。(“2.5.5 VTOC情報取得”参照)	⑬から⑰の“}” 解析対象JCL に指定がないものはDASDのVTOCより情報を追加して出力できます。(“2.5.5 VTOC情報取得”参照)
9	44	2.3.1 機能	(記述追加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>g) プログラム入出力情報の反映 DF-PROGRAMで作成したプログラム入出力情報ファイルの入出力情報をジョブフロー図に反映します。 詳細については“2.5.10 プログラム入出力情報の反映”を参照して下さい。</li> </ul>

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
1 0	53	c)	－ 変換の対象となる利用者語（単語）の長さは、最大28文字までです。……	－ 変換の対象となる利用者語（共通部+単語部）の長さは、最大28文字までです。……
1 1	58	2.5.6 JCLの解析対象項目	JCL の制御文ごとの解析対象項目を表2.8 及び表2.9 に示します。	JCL の制御文ごとの解析対象項目を表2.8 及び表2.9 に示します。 一つのジョブ制御文は1から72バイト目を解析対象とします。
1 2	60	2.5.7 入出力の判定基準	プログラム入出力情報の反映を追加	◆参照 → 16.2
1 3	65	表2.14 装置記号と装置種別の対応	装置種別“W”の行	(記述削除)
1 4	68	2.5.9 ADL 情報の取得	(記述追加)	－ ADL 取得情報の出力方法 d) ADL 取得情報の出力方法 NDB のサブスキーマ名DDの“AIMSUB”が、解析対象JCL 中のDD名と重複する場合、連結されたデータセットとして扱われます。
1 5	68	b) 取得情報の種類	1) サブスキーマ名DDは“AIMSUB”固定とします ..... (記述追加) ..... 注) 解析対象JCL 中のDD名とPED 名からADL 展開されたDD名が重複する場合、追加されません。	1) NDB のサブスキーマ名DDは“AIMSUB”固定 ..... 6) NDB のサブスキーマ名 ..... 注) 解析対象JCL 中のDD名とPED 名からADL 展開されたDD名が重複する場合、以下のようになります。 － 一般データセットの場合：DD名が追加されます。同じDD名のため、連結されたデータセットとして扱われますが、ADL 展開のDD名欄に“@”が出力されます。 － VSAMデータセットの場合：DD名は追加されません。同じDD名のため、連結されたデータセットとして扱われますが、ADL 展開のDD名欄に“@”が出力されます。
1 6	68	2.5.10 プログラム入出力情報の反映	プログラム入出力情報の反映仕様を追加	◆参照 → 16.3

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
17	69	[ホスト側MSP, XSP 共通の制限事項]	<p>－ 解析対象JCL 中にGEM のINCLUDE 制御文を使用し、INパラメタを指定している場合、以下の場合にINCLUDE 展開を行い解析します。</p> <p>－INCLUDE モジュール名, IN=DD 名</p> <p>－INCLUDE モジュール名, IN=データセット名</p> <p>.....</p> <p>－ ジョブフロー図の解析対象JCL 出力欄にはプロシジャ（マクロ）中に記載されている注釈欄（行）と解析対象JCL 中の注釈文（行内注記）は出力されません。</p> <p>（記述追加）</p> <p>.....</p> <p>－ 解析対象JCL 中のDD (FD) 文で、データセットが連結指定されている場合、装置タイプに関係なく、装置種別がWの装置記号が出力されます。</p> <p>.....</p> <p>－ プロシジャ（マクロ）中に記述されているパラメタはキーワードパラメタのみサポートしています。位置パラメタについては解析しません。</p> <p>（記述追加）</p>	<p>－ 解析対象JCL 中にGEM のINCLUDE 制御文を使用している場合、以下のINパラメタはINCLUDE 展開を行います。</p> <p>－INCLUDE モジュール名, IN=DD 名（注）</p> <p>－INCLUDE モジュール名, IN=データセット名</p> <p>注）DF-JOBFLOWの実行JCL にDD名の指定が必要です。</p> <p>.....</p> <p>－ ジョブフロー図の解析対象JCL 出力欄にはプロシジャ（マクロ）中に記載されている注釈欄（行内注記）は出力されません。</p> <p>.....</p> <p>－ ジョブフロー図の解析対象JCL 出力欄にはプロシジャ（マクロ）中に記載されている注釈文（行）の記号パラメタ（仮パラメタ）の置換えは行いません。</p> <p>.....</p> <p>－ 解析対象JCL 中のDD (FD) 文で、データセットが連結指定されている場合、装置タイプに関係なく、連結された標準DASDが出力されます。</p> <p>（記述削除）</p> <p>.....</p> <p>－ 解析対象JCL のデータセットがマルチボリュームの場合、先頭のボリュームのみ解析対象として、データセットの継続およびドキュメントへの出力が行われます。</p>
18	70	[ホスト側MSP, XSP 共通の制限事項]	<p>－ 仮パラメタを使用している場合で実パラメタに“,” 又は空白（スペース）が含まれている場合、動作は保証されません。</p> <p>.....</p> <p>－ ADL 解析指定でADL ソース上のPED DATASET サブエントリ中にスキーマ名を複数（最大8個）定義されている場合（ホットスタンバイ機能を使用する場合は2個目以降のスキーマ名は無視されます）。</p> <p>.....</p> <p>－ ADL 解析指定でPED 情報展開を行った場合、入力JCL のAIMPED DD は入出力のDDと判定されます。</p>	<p>（記述削除）</p> <p>.....</p> <p>（記述削除）</p> <p>.....</p> <p>－ ADL 解析指定でPED 情報展開を行った場合、入力JCL のAIMPED DD およびPED 情報展開後のデータセットは、入出力のDDと判定されます。また注釈による入出力指定もAIMPED DD およびPED 情報展開後のDDに反映されません。</p>

表16.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
19	71	[ホスト側MSPの制限事項]	<p>－ 外部仮パラメタはサポートしません。 SET文に外部仮パラメタが記述されている場合には、その文は無視されます。</p> <p>.....</p> <p>(記述追加)</p>	<p>(記述削除)</p> <p>.....</p> <p>－ プロシジャを直接入力する場合は、JCLライブラリをPRCLIBにも指定しなければなりません。</p> <p>－ DD文のみのプロシジャを直接入力した場合、以下のようなエラーになり出力されません。 V23L10まで：“JSMJC204-E JOB文がありません。・・・” V23L20以降：“JSMJC218-E EXEC文がありません。・・・”</p> <p>－ JOB文の無いプロシジャを直接入力した場合、プロシジャのメンバ名をJOB名とします。</p> <p>－ UNIT=AFF=DD名の場合、装置タイプはDASDとして処理されます。</p> <p>－ 注釈文の73バイト目以降はドキュメントに出力されません。</p> <p>－ EXEC文のプログラム名に逆方向参照の記述がある場合、記述内容の上8桁をプログラム名とみなします。</p> <p>－ DD文のデータセット名に逆方向参照の記述がある場合、記述内容をそのままデータセット名とみなします。</p>
20	73	[パソコン側の制限事項]	<p>－ SIMPLIA/DF-JOBFLOWは、UNC形式のファイル名をサポートしていません。 必ずネットワークドライブを割り当ててから、ネットワーク上のファイルをアクセスするようにして下さい。</p> <p>.....</p> <p>－ GS/Mシリーズ上の解析対象メンバ名に“¥”が含まれている場合、メンバ名の“¥”を“ ”に置き換えて処理します。</p>	<p>(記述削除)</p> <p>.....</p> <p>－ GS/Mシリーズ上の解析対象メンバ名またはジョブIDに“¥”および“#”が含まれている場合、それぞれ“ ”(アンダーバー)および“~”(チルダ)に置き換えて処理します。</p>
21	77 116	図3.1 ジョブフロー出力に必要な制御文 (MSP) 図3.19 移出ファイル出力に必要な制御文 (MSP)	<pre>//ADLLIB DD DSN=ADLライブラリ ,DISP=SHR //STYPEF DD *</pre>	<pre>//ADLLIB DD DSN=ADLライブラリ ,DISP=SHR //JSMHJP10 DD DSN=プログラム入出力情報ファイル,DISP=SHR //STYPEF DD *</pre>
22	79 118	表3.2 リージョン見積り 表3.10 リージョン見積り	(記述追加)	<p>目安： プログラム入出力情報ファイルのレコード件数が200件を超えると、200件単位に バイト： 4002バイト</p>



表16.1 適用マニュアルの正誤表（続き）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
2 3	80  119	図3.3 ジョブフロー出力時の入出力構成 (MSP)  図3.21 移出ファイル出力に必要な制御文 (MSP)	(記述追加)	(記述内容の説明) ジョブフロー出力および移出ファイル出力の入力データセットに省略可として、以下のDD名とデータセット名を追加 DD名：JSMHJP10 データセット名：プログラム入出力情報ファイル
2 4	82 84	3.1.2 実行時オプション 【JOBFLOW】	プログラム入出力情報反映オプションの追加 データセット情報出力抑制指定 (DS1指定時) 説明変更 ◆参照 → 16.4	
2 5	87 90	3.1.3 必要なDD文	表3.3 のIMAGELIBブロック長の変更, JSMHJP10 DD の追加 JSMHJP10説明追加 FT72F001マニュアル名変更 ◆参照 → 16.5	
2 6	108	表3.7 DD名一覧表 (MSP)	DD名：IMAGELIB ブロック長：26793	DD名：IMAGELIB ブロック長：6144
2 7	115	3.3 Windows上でのジョブフロー図の表示	表3.9に装置記号の出力抑制指定の追加 ◆参照 → 16.6	
2 8	122 123	3.3.2 実行時オプション 【ANLFLOW】	プログラム入出力情報反映オプションの追加 ◆参照 → 16.7	
2 9	126 129	3.3.3 必要なDD文	表3.11にJSMHJP10 DD の追加 JSMHJP10説明追加 ◆参照 → 16.8	
3 0	148  155	3.6.1 メンバの選択 (日付) 【@DOPT】 [注意事項]  3.6.3 メンバの選択 (日付・メンバ名) 【@COMPOUND】 [注意事項]	(記述追加)	－ JCL ライブラリが連結され、重複メンバが存在した場合、重複する先頭メンバの更新日付でメンバの選択が行われます。
3 1	259	5.3 必要なデータセット	(記述追加)	－ プログラム入出力情報ファイル
3 2	264	5.3.4 プログラム入出力情報ファイル	プログラム入出力情報ファイルの説明追加 ◆参照 → 16.9	
3 3	300 303 304 307 310 311 319	6.2 診断メッセージ	JSMJC128-S追加 JSMJC225-E, JSMJC233-W変更 JSMJC252-W削除 JSMJC252-S, JSMJC253-W, JSMJC254-W, JSMJC255-W, JSMJC256-W, JSMJC257-W, JSMJC259-W, JSMJC260-W, JSMJC261-W, JSMJC262-E, JSMJC263-W, JSMJC264-E, JSMJC265-W, JSMJC266-W, JSMJC267-W, JSMJC268-W, JSMJC269-W, JSMJC270-W追加 JSMJC527-U変更 JSMJC535-S, JSMJC536-S, JSMJC537-W追加 JSMJC702-W変更 ◆参照 → 16.10	
3 4	340	付1.2 ユーザルーチンへのプロフィール通知 [パラメタの内容と説明]	リターンコードの内容を変更 日付, 時刻の出力形式の説明を追加 ◆参照 → 16.11	
3 5	342	付2.1 バッチ形式と会話形式の機能差一覧	プログラム入出力情報反映機能の追加 ◆参照 → 16.12	

1 6 . 1 解析対象JCL を出力する場合

【旧記述】

- (34) 解析対象JCL .
- (35) SYSIN データセットとその内容. (注6)
- (36) 抑制DD名. “!”

【新記述】

- (34) 解析対象JCL (MSP).
  - 一 解析対象JCL は記述された内容がそのまま出力されるのではなく、以下のように整形されます。ただし、SYSIN データセット内容、注釈文 “//\*” および区切り文 “/\*” は整形されず、そのまま出力されます。また、注釈欄は出力されません。

表2.0-1 解析対象JCL の出力桁位置 (MSP)

出力位置	出力内容
0桁目	抑制DDマーク “!” 出力域
1から10桁目	“//” + 名前欄 (置換えDD文の場合, “. ”以降のDD名のみ出力)
11桁目	空白
12から15桁目	オペレーション欄
16桁目	空白
17から80桁目	オペランド欄 (継続がある場合は, 80桁目まで結合され出力されます。1行で収まらない場合は, 出力できる最後の “,” で折り曲げて, 次行のオペランド欄に出力されます。)

解析対象JCL にプロシジャ呼出しを含む場合は、プロシジャ展開後のJCL が出力され、プロシジャ呼出し前後およびプロシジャ中の注釈文は、システムの出力仕様に合わせた位置に出力されます。

以下に、整形後の解析対象JCL の出力例を示します。

解析対象JCL の内容

```
COL.0....+.1....+.2....+.3....+.4....+.5....+.6....+.7..
//PRC01 PROC
//* STEP01
//STEP01 EXEC PGM=KKLNDSA, REGION=1024K
//IO1 DD DSN=010020. PM. DATA, DISP=SHR
//OUT1 DD UNIT=SYSDA, DSN=&&OUT1, DISP=(NEW, PASS), OUT1は置換え
// SPACE=(TRK, (100, 10), RLSE)
// PEND 000
// EXEC PRC01
//* PRC01の呼出し
//STEP01. OUT1 DD UNIT=SYSDA, DSN=010020. NOHIN. DATA, DISP=(NEW, CATLG),
// SPACE=(CYL, (10, 1)), VOL=SER=VOL001
//* STEP02
//STEP02 EXEC PGM=KKLNSSA, REGION=1024K,
// COND=(4, LE, STP01)
//CDIN DD *
200000101:20001231
/*
//IO1 DD DSN=010020. NOHIN. DATA, DISP=(OLD)
//*IO2 DD UNIT=SYSDA, DSN=010020. HAC. MST,
// * VOL=SER=USER01, DISP=(OLD, DELETE)
//OO1 DD UNIT=SYSDA, DSN=010020. HAN. DATA, DISP=(NEW, CATLG), *IO
// VOL=SER=VOL001, SPACE=(CYL, (10, 10)),
// DCB=(BLKSIZE=23400, RECFM=VB, LRECL=230)
//AIMPED DD SUBSYS=(AIM, PED001, NSAPG, 00)
```

出力される解析対象JCL の内容（整形後）

```
COL. 0....+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7....+....8
//* STEP01
//* PRC01の呼出し
//STEP01 EXEC PGM=KKLNDSA, REGION=1024K
//101 DD DSN=010020. PM. DATA, DISP=SHR
//OUT1 DD UNIT=SYSDA, DSN=010020. NOHIN. DATA, DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(CYL,
// (10, 1)), VOL=SER=VOL001
//* STEP02
//STEP02 EXEC PGM=KKLNSSA, REGION= 1024K, COND=(4, LE, STP01)
//CDIN DD *
200000101:20001231
//*
//101 DD DSN=010020. NOHIN. DATA, DISP=(OLD)
//*102 DD UNIT=SYSDA, DSN=010020. HAC. MST,
//* VOL=SER=USER01, DISP=(OLD, DELETE)
//001 DD UNIT=SYSDA, DSN=010020. HAN. DATA, DISP=(NEW, CATLG), VOL=SER=VOL001,
// SPACE=(TRK, (10, 10)), DCB=(BLKSIZE=23400, RECFM=VB, LRECL=230)
!//AIMPED DD SUBSYS=(AIM, PED001, NSAPG, 00)
```

※ADL 解析指定の場合、AIMPED DD は抑制されるため、抑制DDマーク“！”が出力されますが、ADL 解析で追加されたDD文は、出力の解析対象JCL に追加されません。

(34-1) 解析対象JCL (XSP).

- 解析対象JCL は記述された内容がそのまま出力されるのではなく、以下のように整形されます。ただし、カード形式データ内容、注釈文“¥\*” および入力データ区切り文“¥/”は整形されず、そのまま出力されます。また、注釈欄は出力されません。

表2.0-2 解析対象JCL の出力桁位置 (XSP)

出力位置	出力内容
0桁目	抑制DDマーク“！”出力域
1から 9桁目	“¥” + 名札欄（オーバーライド文の場合，“.”以降の補助索引のみ出力）
10桁目	空白
11から14桁目	命令欄
15桁目	空白
16から80桁目	オペランド欄（継続がある場合は、80桁目まで結合され出力されます。1行で収まらない場合は、出力できる最後の“,”で折り曲げて、次行のオペランド欄に出力されます。注釈文の継続行は連結されません。）

解析対象JCL にマクロ呼出しを含む場合は、マクロ展開後のJCL が出力され、マクロ呼出し前後およびマクロ中の注釈文は、システムの出力仕様に合わせた位置に出力されます。

以下に、整形後の解析対象JCL の出力例を示します。

解析対象JCL の内容

```

COL. 0...+... 1...+... 2...+... 3...+... 4...+... 5...+... 6...+... 7..
  ¥      MACRO   EXPAN
  /EXPAN DEFINE  MAC01
  ¥* STEP01
  ¥@STEP01 EX   KKLNDSA, RSIZE=1024
  ¥I01     FD   I01=DA, FILE=010020. PM. DATA
  ¥OUT1    FD   OUT1=DA, DISP=CONT,      OUT1はオーバライド
          TRK=(100, 10, RLSE), VOL=VOL001
  /      DEFEND
  ¥      MEND
  ¥      CHAM   FILE=TMAC
  ¥*     MAC01 の呼出し
  ¥      MAC01
  ¥STEP01. OUT1 FD  OUT1=DA, FILE=010020. NOHIN. DATA, DISP=CAT,
          CYL=(10, 1), VOL=VOL001
  ¥* STEP02
  ¥STEP02 EX   KKLNSSA, RSIZE=1024,
          COND=(10, 10)
  ¥      FD   CDIN=*
  200000101:20001231
  ¥/
  ¥      FD   I01=DA, FILE=010020. NOHIN. DATA
  ¥*     FD   I02=DA, FILE=010020. HAC. MST,          C
          VOL=USER01, DISP=DLT
  ¥      FD   001=DA, FILE=010020. HZN. DATA, DISP=CAT, *10
          VOL=VOL001, CYL=(10, 10), FCB=(BLKSIZE=23400, RECFM=VB, LRECL=230)
  ¥      FD   AIMPED=SSI, SUBSYS=(AIM, PED001, NSAPG, 00)

```

出力される解析対象JCL の内容（整形後）

```

COL. 0...+... 1...+... 2...+... 3...+... 4...+... 5...+... 6...+... 7...+... 8
  ¥*     MAC01 の呼出し
  ¥* STEP01
  ¥@STEP01 EX   KKLNDSA, RSIZE=1024
  ¥I01     FD   I01=DA, FILE=010020. PM. DATA
  ¥OUT1    FD   OUT1=DA, FILE=010020. NOHIN. DATA, DISP=CAT, CYL=(10, 1), VOL=VOL001
  ¥* STEP02
  ¥STEP02 EX   KKLNSSA, RSIZE=1024, COND=(10, 10)
  ¥      FD   CDIN=*
  200000101:20001231
  ¥/
  ¥      FD   I01=DA, FILE=010020. NOHIN. DATA
  ¥*     FD   I02=DA, FILE=010020. HAC. MST,          C
          VOL=USER01, DISP=DLT
  ¥      FD   001=DA, FILE=010020. HZN. DATA, DISAP=CAT, VOL=VOL001, CYL=(10, 10),
          FCB=(BLKSIZE=23400, RECFM=VB, LRECL=230)
  !¥      FD   AIMPED=SSI, SUBSYS=(AIM, PED001, NSAPG, 00)

```

※ADL 解析指定の場合、AIMPED FD は抑制されるため、抑制DDマーク “!” が出力されますが、ADL 解析で追加されたFD文は、出力の解析対象JCL に追加されません。

- (35) SYSIN データセットとその内容。（注6）
- (36) 抑制DD名. “!”

1 6 . 2 2.5.7 入出力の判定基準

**【旧記述】**

入出力の判定方法について、以下の順に説明します。優先順位は以下の説明順となり、入出力判定指示による入出力判定が一番に優先されます。

- － 入出力判定指示による入出力判定
- － 注釈による判定
- － ユーティリティの入出力判定
- － 注釈の記述がない場合の入出力判定基準

~~~~~

d) 注釈の記述がない場合の入出力判定基準

**【新記述】**

入出力の判定方法について、以下の順に説明します。優先順位は以下の説明順となり、入出力判定指示による入出力判定が一番に優先されます。

- － 入出力判定指示による入出力判定
- － 注釈による判定
- － ユーティリティの入出力判定
- － プログラム入出力情報の反映
- － 注釈の記述がない場合の入出力判定基準

~~~~~

d) プログラム入出力情報の反映

プログラム入出力情報ファイルの入出力情報をジョブフローに反映できます。

1) プログラム入出力情報ファイル

プログラム入出力情報ファイルを作成するには、SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L20 以降が必要になります。プログラム入出力情報ファイルに関しては、“OSIV SIMPLIA/DF-PROGRAM ソフトウェア説明書 適用マニュアルの正誤表”を参照してください。

2) プログラム入出力情報の反映方法

プログラム入出力情報の反映指示は、実行時オプションで指定します。

e) 注釈の記述がない場合の入出力判定基準

### 1 6 . 3 2.5.10 プログラム入出力情報の反映

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

2.5.10	プログラム入出力情報の反映
--------	---------------

プログラム入出力情報ファイルは、SIMPLIA/DF-PROGRAMがCOBOL プログラムを解析して作成するファイルです。

プログラム入出力情報ファイルにより、ジョブフロー図におけるデータセットの入出力判定の精度が向上します。

#### プログラム入出力情報の反映基準

- ー ジョブステップ単位に入出力情報を反映します。
- ー プログラム名とDD名をキーとして、入出力情報を反映します。
- ー 入出力情報が存在しない場合は反映しません。
- ー プログラム名は一意として扱います。ジョブステップで実行モジュールのライブラリが異なっても、プログラム名が同じであれば同一のプログラムとみなします。

【旧記述】

ドキュメントキーワード	キーワードオプション	共通オプション
	[, { <u>HIDE</u> <u>SHOW</u> } ] )	[, FOP= フォームオーバーレイ識別名]  [, JCLPSW=JCL ライブラリパスワード]  [, { <u>ADL</u> <u>NOADL</u> } ]

図3.6 ジョブフロー出力で指定できるオプション

{ <u>HIDE</u> <u>SHOW</u> }	データセット情報出力抑制指定 (DSI 指定時)
--------------------------------	--------------------------

@ROPT 制御文が指定された場合のみ有効です。

HIDE : @ROPT 制御文で指定されたDD名情報をジョブフロー図のデータセット情報に出力しない場合。

SHOW : @ROPT 制御文で指定されたDD名情報をジョブフロー図のデータセット情報に出力する場合。

省略時 : SHOW.

3) 共通オプション

【新記述】

ドキュメントキーワード	キーワードオプション	共通オプション
	[, { <u>HIDE</u> <u>SHOW</u> } ]  [, { <u>PIO</u> <u>NOPIO</u> } ] )	[, FOP= フォームオーバーレイ識別名]  [, JCLPSW=JCL ライブラリパスワード]  [, { <u>ADL</u> <u>NOADL</u> } ]

図3.6 ジョブフロー出力で指定できるオプション

{ <u>HIDE</u> <u>SHOW</u> }	データセット情報出力抑制指定 (DSI 指定時)
--------------------------------	--------------------------

@ROPT 制御文が指定された場合のみ有効です。

HIDE : @ROPT 制御文で指定されたDD名情報をジョブフロー図のデータセット情報とフロー図に

出力しない場合.

SHOW : @ROPT 制御文で指定されたDD名情報をジョブフロー図のデータセット情報に出力し、フロー図に出力しない場合.

省略時 : SHOW.

---

$\left\{ \begin{array}{l} \text{PIO} \\ \text{NOPIO} \end{array} \right\}$

プログラム入出力情報の反映

---

PIO : プログラム入出力情報ファイルの情報を反映する場合.

NOPIO : プログラム入出力情報ファイルの情報を反映しない場合.

省略時 : NOPIO .

### 3) 共通オプション



## 【旧記述】

表3.3 DD名一覧表 (MSP) (続く)

DD名	日本語名	必須/選択	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長	装置
IMAGELIB	イメージライブラリ	○	PO	U	0	26793	
STYPEF	装置変換テーブル	○	PS	F FB	80	80×n	DASD
FT72F001	漢字ストロークテーブル (KST 用)	KST, KST II 使用者 ○	詳細については, “OSIV/F4 MSP ADJUST仕様手引書” を参照				

## — STYPEF

装置変換テーブルのデータセットを指定します。

装置変換テーブルの指定方法については, “3.5.1 装置変換テーブルの指定” を参照して下さい。

## 【新記述】

表3.3 DD名一覧表 (MSP) (続く)

DD名	日本語名	必須/選択	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長	装置
IMAGELIB	イメージライブラリ	○	PO	U	0	6144	
STYPEF	装置変換テーブル	○	PS	F FB	80	80×n	DASD
JSMJHP10	プログラム入出力情報ファイル	△	PS	F FB	30	30×n	
FT72F001	漢字ストロークテーブル (KST 用)	KST, KST II 使用者 ○	詳細については, “OSIV VMH説明 書 KST編” を参照				

## — STYPEF

装置変換テーブルのデータセットを指定します。

装置変換テーブルの指定方法については, “3.5.1 装置変換テーブルの指定” を参照して下さい。

## — JSMJHP10

プログラム入出力情報を反映する場合, プログラム入出力情報ファイルを指定します。

16.6 3.3 Windows上でのジョブフロー図の表示

【旧記述】

表3.9 移出ファイルの出力の指定

実行時オプション/SYSIN 制御文	説明
SYSIN 制御文	@COMPOUND メンバの最終更新日付とメンバ名の複合条件による解析を行う場合に指定します。
	@INDD データセットの出力位置を入力としたいDD名を指定します。

【新記述】

表3.9 移出ファイルの出力の指定

実行時オプション/SYSIN 制御文	説明
SYSIN 制御文	@COMPOUND メンバの最終更新日付とメンバ名の複合条件による解析を行う場合に指定します。
	@ROPT 装置記号を出力する必要のないDD名を指定します。
	@INDD データセットの出力位置を入力としたいDD名を指定します。

【旧記述】

b) 記述方法

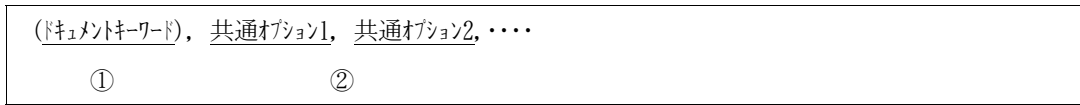


図3.24 実行時オプションの記述方法

- ① ドキュメントキーワード：移出ファイルを出力することを指定します。
- ② 共通オプション：ジョブロー出力、データセット一覧と共通で使用するオプションです。

c) 実行時オプション一覧

ドキュメントキーワード	キーワードオプション	共通オプション
(ANLFLOW)	_____	[, { $\frac{VTOC}{NOVTOC}$ } ] [, { $\frac{PFD}{APDF}$ } ]

ANLFLOW：移出ファイル出力指示。なお、当オプションは省略できません。

2) 共通オプション

【新記述】

b) 記述方法

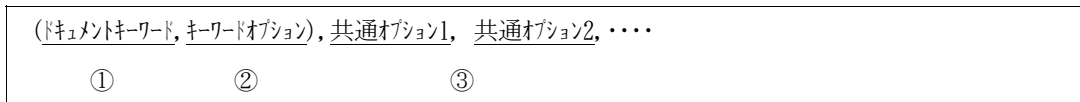


図3.24 実行時オプションの記述方法

- ① ドキュメントキーワード：移出ファイルを出力することを指定します。
- ② キーワードオプション：移出ファイル出力固有のオプションです。
- ③ 共通オプション：ジョブロー出力、データセット一覧と共通で使用するオプションです。

c) 実行時オプション一覧

ドキュメントキーワード	キーワードオプション	共通オプション
(ANLFLOW	[, { $\frac{PIO}{NOPIO}$ } ] )	[, { $\frac{VTOC}{NOVTOC}$ } ] [, { $\frac{PFD}{APDF}$ } ]

ANLFLOW：移出ファイル出力指示。なお、当オプションは省略できません。

2) キーワードオプション

---

$\left\{ \begin{array}{l} \text{PIO} \\ \text{NOPIO} \end{array} \right\}$

---

プログラム入出力情報の反映

PIO : プログラム入出力情報ファイルの情報を反映する場合.

NOPIO : プログラム入出力情報ファイルの情報を反映しない場合.

省略時 : NOPIO .

3) 共通オプション

【旧記述】

表3.11 DD名一覧表 (MSP)

DD名	日本語名	必須/選択	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長	装置
STYPEF	装置変換テーブル	○	PS	F FB	80	80×n	

— STYPEF

装置変換テーブルのデータセットを指定します。

装置変換テーブルの指定方法については、“3.5.1 装置変換テーブルの指定”を参照して下さい。

【新記述】

表3.11 DD名一覧表 (MSP)

DD名	日本語名	必須/選択	編成	レコード形式	レコード長	ブロック長	装置
STYPEF	装置変換テーブル	○	PS	F FB	80	80×n	
JSMJHP10	プログラム入出力情報 ファイル	△	PS	F FB	30	30×n	

— STYPEF

装置変換テーブルのデータセットを指定します。

装置変換テーブルの指定方法については、“3.5.1 装置変換テーブルの指定”を参照して下さい。

— JSMJHP10

プログラム入出力情報を反映する場合、プログラム入出力情報ファイルを指定します。

16.9 5.3.4 プログラム入出力情報ファイル

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

5.3.4	プログラム入出力情報ファイル
-------	----------------

プログラム入出力情報ファイルは、ジョブフロー図においてプログラム入出力情報を反映させる場合に必要です。

プログラム入出力情報ファイルは、SIMPLIA/DF-PROGRAMにて作成するファイルです。

プログラム入出力情報ファイルを作成するには、SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L20 以降が必要になります。プログラム入出力情報ファイルに関しては、“OSIV SIMPLIA/DF-PROGRAM ソフトウェア 説明書 適用マニュアルの正誤表”を参照してください。

プログラム入出力情報ファイルのデータセット形式を表5.6-1 に示します。

表5.6-1 プログラム入出力情報ファイルのデータセット形式

プログラム入出力情報 ファイル	データセット編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	装置
	順編成	F [B]	30	30×n (注)	DASD

注) nは任意の整数

プログラム入出力情報の反映の詳細は、“2.5.10 プログラム入出力情報の反映”を参照して下さい。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC128-S 正しくない装置種別を指定しています。装置種別=@ 1

[メッセージの意味] 指定できない装置種別が指定されています。

[パラメタの意味] @ 1 : 指定された装置種別

[システムの処理] 処理を中止します。

[利用者の処置] 正しい装置種別を指定して、再度実行して下さい。

**【旧記述】**

JSMJC225-E プロシジャが見つかりません。処理メンバ名=@ 1, プロシジャ名=@ 2

[メッセージの意味] プロシジャライブラリ中に、指定したプロシジャ名がありません。

[パラメタの意味] @ 1 : JCL エラーが発生したメンバ名。

@ 2 : 見つからないプロシジャ名。

[システムの処理] このメンバの処理を中止します。次のメンバがあれば次の処理を続行します。

[利用者の処置] 解析対象JCL を修正して、処理メンバを再度実行して下さい。

**【新記述】**

JSMJC225-E プロシジャが見つかりません。処理メンバ名=@ 1, プロシジャ名=@ 2

[メッセージの意味] プロシジャライブラリ中に、指定したプロシジャ名がないか、または指定したプロシジャ名から呼び出されたインクルード名がありません。

[パラメタの意味] @ 1 : JCL エラーが発生したメンバ名。

@ 2 : プロシジャ名または使用しているインクルード名が見つからないプロシジャ名

[システムの処理] このメンバの処理を中止します。次のメンバがあれば次の処理を続行します。

[利用者の処置] 解析対象JCL を修正して、処理メンバを再度実行して下さい。インクルードライブラリを使用している場合は、プロシジャライブラリに指定して下さい。

**【旧記述】**

JSMJC233-W S E T文で外部仮パラメタの書換えはできません。処理メンバ名=@ 1

[メッセージの意味] 外部仮パラメタの書換えは行いません。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

[システムの処理] SET 文を無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 外部仮パラメタを使用している箇所を確認して下さい。

**【新記述】**

JSMJC233-W 外部仮パラメタは無視します。復帰情報=@ 1, @ 2

[メッセージの意味] 外部仮パラメタは解析しません。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 : 外部仮パラメタを使用しているマクロ名。

[システムの処理] 外部仮パラメタを無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

JSMJC252-W マクロが5階層をこえました。処理メンバ名=@ 1

[メッセージの意味] マクロ (SYSIN 文も含む) の階層が当ツールの制限の5を超えました。

[パラメタの意味] @ 1 : 制限抵触した解析中のJCL メンバ名。

[システムの処理] エラーを無視し、処理を続行します。

[利用者の処置] 解析対象JCL を修正するか、マクロライブラリを指定し直して、再度実行させていただきます。

**【新記述】**

(記述削除)

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC252-S プログラム入出力情報ファイルの入出力情報が正しくありません。

[メッセージの意味] プログラム入出力情報ファイルの入出力情報が正しくありません。

[システムの処理] 処理を中止します。

[利用者の処置] プログラム入出力情報ファイルが正しいか確認し、正しくなければ作成し直して再度実行してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC253-W プログラム名がプログラム入出力情報ファイルに存在しません。復帰情報=@ 1 , @ 2 , @ 3

[メッセージの意味] 解析対象JCL のプログラム名が、プログラム入出力情報に存在しません。

V23L50 : D D情報がすべてファイル識別名定数または特殊なD D名の場合を含みます。

V23L60 : D D情報がすべてファイル識別名定数または特殊なD D名の場合を含みません。

[パラメタの意味] @ 1 : 解析対象JCL のメンバ名

@ 2 : ステップ番号

@ 3 : プログラム名

[システムの処理] 処理を続行します。

[利用者の処置] プログラム入出力情報ファイルの情報が、解析対象JCL におけるプログラム名の情報として正しいかどうかを確認してください。プログラム入出力情報が正しくなければ作成し直して再度実行してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC254-W D D名がプログラム入出力情報ファイルに存在しません。復帰情報=@ 1 , @ 2 , @ 3



[メッセージの意味] 解析対象JCL のジョブステップに存在するDD名が、プログラム入出力情報に存在しません。

V23L50 : DD情報がすべてファイル識別名定数または特殊なDD名の場合を含みません。

V23L60 : DD情報がすべてファイル識別名定数または特殊なDD名の場合を含みます。

[パラメタの意味] @ 1 : 解析対象JCL のメンバ名  
@ 2 : ステップ番号  
@ 3 : プログラム入出力情報ファイルに存在しないDD名

[システムの処理] 処理を続行します。

[利用者の処置] プログラム入出力情報ファイルの情報が、解析対象JCL におけるプログラム名の情報として正しいかどうかを確認してください。プログラム入出力情報が正しくなければ作成し直して再度実行してください。

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

JSMJC255-W DD名がJCLに存在しません。復帰情報=@ 1 , @ 2 , @ 3

[メッセージの意味] 解析対象JCL のジョブステップに存在しないDD名が、プログラム入出力情報に存在します。

[パラメタの意味] @ 1 : 解析対象JCL のメンバ名  
@ 2 : ステップ番号  
@ 3 : JCL に存在しないDD名

[システムの処理] 処理を続行します。

[利用者の処置] プログラム入出力情報ファイルの情報が、解析対象JCL におけるプログラム名の情報として正しいかどうかを確認してください。プログラム入出力情報が正しくなければ作成し直して再度実行してください。

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

JSMJC256-W JOB文が8行を超えました。処理メンバ名=@ 1 , JOB名=@ 2

[メッセージの意味] JOB 文の有効行が8行を超えました。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。  
@ 2 : JOB 文が8行を超えたJOB 名。

[システムの処理] JOB 文の9 行目以降は無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

JSMJC257-W JOBG文が8行を超えました。処理メンバ名=@ 1 , JOBG名=@ 2

- [メッセージの意味] JOBG文の有効行が8行を超えました。
- [パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。  
@ 2 : JOBG文が8行を超えたJOBG名。
- [システムの処理] JOBG文の9行目以降は無視して処理を続行します。
- [利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC259-W SYSINデータセットのパラメタは“\*”以外を無視します。復帰情報=@ 1, @ 2,  
@ 3

- [メッセージの意味] SYSIN データセットのパラメタは“\*”以外を解析しません。
- [パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。  
@ 2 : SYSIN データセットが存在するステップ番号。  
@ 3 : SYSIN データセットのDD名。
- [システムの処理] SYSIN データセットのデータ内容は無視して処理を続行します。
- [利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC260-W システムコマンド文は無視します。復帰情報=@ 1, @ 2, @ 3

- [メッセージの意味] システムコマンド文は解析しません。
- [パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。  
@ 2 : マクロ名チェック機能の場合, “0000”。  
マクロ名チェック機能以外の場合, システムコマンド文が存在する直前のステップ番号。ただし, “0000”の場合は, システムコマンド文は1ステップ目より前に存在。  
@ 3 : システムコマンド文に指定されたシステムコマンド。
- [システムの処理] システムコマンド文を無視して処理を続行します。
- [利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC261-W システム入力ファイル内のオーバーライド制御文は無視します。復帰情報=@1,@2

- [メッセージの意味] システム入力ファイル内に記述しているオーバーライド制御文は解析しません。
- [パラメタの意味] @1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。  
@2 : システム入力ファイル名またはシステム入力ファイル名(メンバ名)。  
復帰情報は半角文字で出力されます。
- [システムの処理] システム入力ファイル内のオーバーライド制御文は、通常の制御文とみなして処理

を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC262-E マクロ名に仮パラメタが使用されています。復帰情報=@1,@2

[メッセージの意味] マクロ名に仮パラメタが使用されています。

[パラメタの意味] @1:処理できないメンバ名。

@2:仮パラメタを使用しているマクロ名。

復帰情報は半角文字で出力されます。

[システムの処理] このメンバの処理を中止します。次のメンバがあれば次の処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC263-W F D D S文の“/”データ以降は無視します。復帰情報=@ 1 , @ 2 , @ 3

[メッセージの意味] FDDS文において“/”以降は解析しません。

[パラメタの意味] @ 1 :ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 :FDDS文が存在するステップ番号。

@ 3 :FDDS文のアクセス名。

[システムの処理] “/”以降のカード形式データ内容は無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC264-E S C A N文が存在します。処理メンバ名=@ 1

[メッセージの意味] SCAN文が存在します。

[パラメタの意味] @ 1 :処理できないメンバ名。

[システムの処理] このメンバの処理を中止します。次のメンバがあれば次の処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC265-W カード形式データのパラメタは“\*”以外は無視します。復帰情報=@ 1 , @ 2 , @ 3

[メッセージの意味] カード形式データのパラメタは“\*”以外を解析しません。

[パラメタの意味] @ 1 :ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 :カード形式データが存在するステップ番号。

@ 3 :カード形式データのアクセス名。

[システムの処理] カード形式データのデータ内容は無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC266-W カード形式データにマクロ定義形編集制御文と同様の記述が存在します。復帰情報=@ 1, @ 2, @ 3

[メッセージの意味] カード形式データのデータ内容に、マクロ定義形編集制御文と同様の記述が存在します。マクロ定義形編集制御文として処理するため、正常に解析されない場合があります。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 : カード形式データが存在するステップ番号。

@ 3 : カード形式データのアクセス名。

[システムの処理] マクロ定義形編集制御文として処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC267-W P A R A文のパラメタ記述が102文字を超えました。復帰情報=@ 1, @ 2

[メッセージの意味] P A R A文に指定されているパラメタの文字数が102文字を超えました。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 : P A R A文が存在するステップ番号。

[システムの処理] 103文字以降のパラメタを無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC268-W U N I T=A F F=D D名を指定しています。復帰情報=@ 1, @ 2, @ 3

[メッセージの意味] U N I Tパラメタに装置の共有要求が指定されています。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 : U N I T=A F F=D D名が存在するステップ番号。

@ 3 : U N I T=A F F=D D名を指定しているD D名。

[システムの処理] U N I T=A F F=D D名の装置種別はD A S Dとみなして処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC269-W 解析対象 J C Lの注釈文が72バイトを超えました。復帰情報=@ 1

[メッセージの意味] 解析対象JCL 中の注釈文が72バイトを超えました。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

[システムの処理] 注釈文の73バイト目以降は無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC270-W プロシジャの注釈文が72バイトを超えました。復帰情報=@ 1, @ 2

[メッセージの意味] プロシジャ中の注釈文が72バイトを超えました。

[パラメタの意味] @ 1 : ワーニングエラーが発生したメンバ名。

@ 2 : 注釈文が72バイトを超えたプロシジャ名。

[システムの処理] 注釈文の73バイト目以降は無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 制限事項であり、該当箇所を確認してください。

**【旧記述】**

JSMJC527-U プロシジャライブラリの指定が正しくないため、プロシジャ展開処理が行えません。

[メッセージの意味] このメッセージより前に出たプロシジャライブラリに関するメッセージを確認し、プロシジャライブラリの正しくない原因を調べて下さい。

[システムの処理] 処理を中止します。

[利用者の処置] プロシジャライブラリの指定がなければ指定し、レコード長が80バイトの固定長でなければ、正しく作成し直して再度実行して下さい。

**【新記述】**

JSMJC527-U プロシジャライブラリの指定が正しくないため、プロシジャ展開処理が行えません。

処理メンバ名=@ 1

[メッセージの意味] このメッセージより前に出たプロシジャライブラリに関するメッセージを確認し、プロシジャライブラリの正しくない原因を調べて下さい。

[パラメタの意味] @ 1 : 解析対象JCL のメンバ名

[システムの処理] 処理を中止します。

[利用者の処置] プロシジャライブラリの指定がなければ指定し、レコード長が80バイトの固定長でなければ、正しく作成し直して再度実行して下さい。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC535-S プログラム入出力情報ファイルの指定がありません。

[メッセージの意味] PARMパラメタで“PIO ” オプションを指定しているにもかかわらず、ジョブ制御文中にプログラム入出力情報ファイルのDD文 (JSMHJP10) の指定がありません。

[システムの処理] 処理を中止します。

[利用者の処置] ジョブ制御文で、プログラム入出力情報ファイルのDD文を割り当ててください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC536-S プログラム入出力情報ファイルの指定に誤りがあります。

[メッセージの意味] プログラム入出力情報ファイルの属性(データセット編成、レコード長等)に誤りがあります。

[システムの処理] 処理を中止します。

[利用者の処置] プログラム入出力情報ファイルが正しい形式で作成されているか確認してください。正しくなければ作成し直して再度実行してください。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJC537-W プログラム入出力情報ファイルのレコードが1件もありませんでした。

[メッセージの意味] プログラム入出力情報ファイルにレコードが1件もありません。

[システムの処理] 処理を続行します。

[利用者の処置] プログラム入出力情報ファイルが正しいか確認し、正しくなければ作成し直して再度実行してください。

**【旧記述】**

JSMJC702-W ANLFLOWまたはCHECK指定では@ROPT文は指定できません。当制御文は無視します。

[メッセージの意味] ANLFLOW またはCHECK 指定時に、@ROPT 文を指定しています。

[システムの処理] @ROPT 指定を無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 必要ならば@ROPT を指定せず、再度実行して下さい。

**【新記述】**

JSMJC702-W CHECK指定では@ROPT文は指定できません。当制御文は無視します。

[メッセージの意味] CHECK 指定時に、@ROPT 文を指定しています。

[システムの処理] @ROPT 指定を無視して処理を続行します。

[利用者の処置] 必要ならば@ROPT を指定せず、再度実行して下さい。

16.11 付1.2 ユーザルーチンへのプロフィール通知 [パラメタの内容と説明]

【旧記述】

[パラメタの内容と説明]

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		
05	修正日付	X(08)	DF-JOBFLOWの修正日付
05	修正時刻	X(08)	DF-JOBFLOWの修正時刻
05	実行日付	X(08)	JSMIPRF1の実行日付
05	実行時刻	X(08)	JSMIPRF1の実行時刻
05	リターンコード	9(02)	MSP:00, XSP:10 …正常 MSP:08, XSP:30 …依頼パラメタ不当
05	FILLER	X(08)	

【新記述】

[パラメタの内容と説明]

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		
05	修正日付	X(08)	DF-JOBFLOWの修正日付 (yy. mm. dd)
05	修正時刻	X(08)	DF-JOBFLOWの修正時刻 (hh. mm )
05	実行日付	X(08)	JSMIPRF1の実行日付 (yy. mm. dd)
05	実行時刻	X(08)	JSMIPRF1の実行時刻 (hh. mm. ss)
05	リターンコード	9(02)	00: 正常 03: 入力区分エラー 04: 処理形態エラー 05: ツール名エラー
05	FILLER	X(08)	

16.12 付2.1 バッチ形式と会話形式の機能差一覧

【旧記述】

付表2.1 バッチ形式と会話形式の機能差一覧

ドキュメント キーワード	機 能	バッチ 形式	会話 形式
	ADL 情報の取得	○	×

- － ADL 情報の取得 “2.5.9 ADL 情報の取得”

【新記述】

付表2.1 バッチ形式と会話形式の機能差一覧

ドキュメント キーワード	機 能	バッチ 形式	会話 形式
	ADL 情報の取得	○	×
	プログラム入出力情報の反映	○	×

- － ADL 情報の取得 “2.5.9 ADL 情報の取得”
- － プログラム入出力情報の反映 “2.5.10 プログラム入出力情報の反映”



17. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

◆参照→4

表17.1 プログラム修正事項

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>ジョブフロー出力機能およびJCL移出ファイル作成機能において、プロシジャ呼出し直後の注釈文がドキュメントに出力されない場合がある。</p> <p>(対処) プロシジャ呼出し直後の注釈文が、システム出力仕様に合わせた箇所に出力されるよう修正した。</p>	JSMJ3190
2	<p>会話形式において、データセット一覧出力機能をVTOC指定で実行した場合、装置記号が誤っていても会話形式ではエラーとならず、起動されたバッチジョブ実行時にエラーとなる。</p> <p>(対処) 会話形式において、装置記号が誤った状態でデータセット一覧出力機能のVTOC指定を行った場合、JSMJD044-Sのエラーメッセージが出力されるよう修正した。</p>	JSMJ8040
3	<p>JCL移出ファイル作成機能において、プロシジャ呼出し後の置換えDD文“プロシジャステップ名.DD名”がそのまま出力され、ドキュメント上桁落ちする場合がある。</p> <p>(対処) プロシジャ呼出し後の置換えDD文“プロシジャステップ名.DD名”は、ドキュメント上“.”の後の“DD名”のみ出力されるよう修正した。</p>	JSMJ3370
4	<p>データセット一覧出力機能において、プロシジャ呼出し後の置換えDD文が、SYSIN データセット (DD *) の場合、処理のループにより中間ファイル (DD名: JSMHJ010) がSD37 (領域不足) で異常終了する。 呼出されるプロシジャ内は複数ジョブステップである。</p> <p>例 // EXEC PROC01 ←プロシジャ呼出し文 //STEP1.INDD DD * ←置換えDD文 (SYSIN データセット) DATA01 /*</p> <p>(対処) プロシジャ呼出し後の置換えDD文が、SYSIN データセット (DD *) の場合、正常に出力されるよう修正した。</p>	JSMJ3370
5	<p>ジョブフロー出力機能、データセット一覧出力機能およびJCL移出ファイル作成機能のADL 解析指定において、ADL ソースライブラリにPED 定義があるにも関わらず、“JSMJC567-W ADL ソースライブラリ中に該当PED定義がありません。”のメッセージが出力され、PED 情報がドキュメントに出力されない。 ADL ソースライブラリは401 メンバ以上である。 V23L50のみで発生する。</p> <p>(対処) ADL ソースライブラリが401 メンバ以上でも、PED 定義が出力されるよう修正した。</p>	JSMJ4600





